



2017年度

向陽ヶ丘病院年報

北海道立向陽ヶ丘病院

はじめに

平成 30 年度は平成の最後の年度となりました。なにかと自然災害の多い年でした。

6 月 18 日の大阪北部地震、6 月 28 日から 7 月 8 日かけての西日本豪雨、そして本州の記録的猛暑があり、9 月 6 日早朝、北海道胆振東部地震がありました。

当院から震源は離れており、地震の直接的な被害はほとんどありませんでしたが、地震発生 18 分後に起こった全道停電により、信号停止による交通機関の麻痺、物資の流通の停止、エレベーター、空調、照明の消失などが、甚大な被害を当院にももたらしました。職員の尽力により補助電源を起動、食事は入院患者には非常用食料を提供し、病棟へは全職員が共同で運ぶなど、なんとかして病院機能は維持されました。幸いカルテシステムがダウンしなかったため、地震発生日も外来診療を行う事が出来ました。翌日には停電も徐々に回復し、患者さん、職員ともになんとか乗り切ることができましたが、備蓄食料の量や、病院管理システムへの非常時の電源確保など種々の課題が残りました。もし冬期だったり、停電の復旧が遅れたりしていたら、当院がどこから救援を受ける立場になっていたと思われます。

当院の被害が少なかったこともあり、私は副総看護師長と被災地へこころのケアチームとして、9 月 19 日から 9 月 25 日（活動は 20 日朝から 25 日朝）まで参加してすることが出来ました。本来、自然災害や航空機・列車事故、犯罪事件などの集団災害の後、被災地域に入り、精神科医療および精神保健活動の支援を行う専門的なチーム（DPAT）が被災地への援助活動を行うべく組織されているのですが、まだ本道では DPAT の体制が完備されていません。今回も、私が派遣されるにあたり、連絡系統もはっきりせず困りました。今後 DPAT 体制が整えられていきますが、今回の事態を踏まえ、よりよい体制が構築されていくものと考えます。

オホーツク三次医療圏の精神科救急医療システムは、当番病院である当院と北見赤十字病院に相変わらず負担の大きいシステムとなっています。今年度からは、措置入院者の退院支援に対する具体的な方策が導入されたからか、措置入院の件数が増加しており、保健所との連携がますます必要となっています。

病院運営では、入院患者数の減少、訪問看護のニーズの増加に対応するべく、3 階病棟の夜勤体制の調整に協力いただきました。高齢化および過疎化により今後も、入院患者および外来患者の減少傾向は続くと考えられ、収益確保と当院のオホーツク三次医療圏の中心的精神医療機関という使命を両立していくために、さらなる創意工夫が必要になってきます。

平成 31 年 2 月 1 日

病院長 藤井 泰

理念、基本方針等

理 念

「こころの和と輪」を大切に、
患者さま、ご家族、地域の皆さまと手を携え、信頼と満足の医療を目指します。

基本方針

- ・オホーツク圏における精神科医療の基幹病院としての役割を果たします。
- ・患者さまの権利を尊重し、安全で信頼される医療を提供します。
- ・人権を尊重し、地域との連携を深め、患者さまの社会参加を応援します。
- ・医の倫理を踏まえ、より質の高い医療を目指して職員の資質の向上に努めます。
- ・公的責務を自覚し、透明かつ適正な病院経営に努めます。

患者さまの権利と義務

「患者さまの権利」

向陽ヶ丘病院は「患者の権利宣言(リスボン宣言)」を尊重します。

- ・人権や価値観を尊重され、適正な医療を公平に受けることができます。
- ・病気や治療の内容について、十分な説明を受けることができます。
- ・十分な説明に基づき、自らの意志で医療内容を選択することができます。
- ・医療上の個人情報や秘密は守られます。
- ・あなたの診療情報の開示を求めることができます。

「患者さまの義務」

- ・ご自身の健康に関する情報を知らせていただきます。
- ・病気や治療の内容について、十分理解するように努力していただきます。
- ・病院のルールを守り、意欲を持って医療に参加していただきます。
- ・他の患者さまの医療を妨害する行為を慎んでいただきます。
- ・医療費を支払う義務があります。

臨床倫理綱領

- 1 病める人々とその家族・関係者の権利を尊重し、信頼関係に基づいた医療を行います。
- 2 十分な説明と同意に基づく、患者さま本意の医療を行います。
- 3 隔離などの行動制限が必要な場合には、それを最小限にとどめるよう努力します。
- 4 医療情報、記録を整備し、決められた基準に従い管理します。これらの情報に関しては、患者さま以外の第三者に対しては、正当な理由なく洩らしません。
- 5 病院医療に関わるあらゆる安全管理に最大限の努力をします。

職員の倫理

- 1 向陽ヶ丘病院の理念、基本方針を自己の行動の規範とします。
- 2 公務員倫理と医の倫理を踏まえ、患者さまの権利を尊重し、希望のもてる医療を実践します。
- 3 仕事に誇りを持ち、すべての患者さまに公平、平等な医療を行います。
- 4 より質の高い医療を提供するため、自己研鑽に努めます。
- 5 患者さまや地域からの信頼を得るよう努めます。

暴力対策指針

この指針は、北海道立向陽ヶ丘病院職員（以下「職員」という。）が暴力の基本を踏まえ、包括的かつ組織的に暴力の予防、対応、再発防止に取り組む方法を指針として示すことによって、職員を暴力から保護し、職員の安全と健康を確保するとともに快適な職場をつくり、もって質の高い安全な医療サービスを提供することを目的とする。

目 次

はじめに

理念、基本方針等

第 1	病院の概要	1
1	性格と機能	1
2	主な事業	1
3	施設概況	1
4	診療概要	1
5	組織機構	2
6	職員数	3
7	院内各種会議・委員会等の設置状況	4
8	会議・委員会等組織図	5
第 2	業務概要	6
1	医局	6
2	看護	7
3	薬局	1 1
4	栄養指導部門	1 2
5	放射線科	1 3
6	臨床検査科	1 4
7	地域連携室、地域連携科	1 5
8	地域連携室 リハビリテーション科（デイケア部門）	1 6
9	地域連携室 リハビリテーション科（作業療法部門）	1 7
10	地域連携室 臨床心理部門	1 8
11	認知症疾患医療センター	1 9
第 3	診療概況	2 0
1	年度別、病棟別入院患者動態	2 0
2	新入院患者の病名別・形態別患者数及び割合	2 2
3	新入院患者の病名別・年齢構成	2 8
4	新入院患者の年齢階層別人数及び割合の年次推移	3 4
5	入院患者の在院期間別人数及び割合	3 5
6	退院患者の退院先別入院期間別人数及び割合	3 6
7	入院患者の居住地域別人数及び割合	3 8
8	入院患者の経路別人数及び割合	3 9
9	外来患者数の推移	4 0
10	初診外来患者の病名別分類	4 2
11	外来患者の居住地域別人数及び割合	4 3
12	診療時間以外の診療件数内訳	4 4
13-1	精神科救急医療システム実績	4 4
13-2	救急車による患者搬入件数の年次推移	4 4

第 4	経営概況	4 5
1	決算状況	4 5
2	経営分析調	4 6
3	診療行為別件数	4 7
4	病床100床当たり職員数	4 8
5	医薬材料使用効率調	4 9
6	給食収益に対する材料費調	4 9
第 5	地域支援活動	5 0
1	診療支援	5 0
2	地域の保健、予防活動	5 0
3	講演	5 1
4	自助グループへの支援	5 1
5	グループホームと地域活動支援センターの支援	5 1
6	網走保健所、市町村等との連携	5 1
第 6	研修、教育・実習	5 3
1	院内研修開催状況	5 3
2	院外研修会等参加状況	5 3
3	教育、実習の受入	5 4
第 7	医療事故等の状況	5 5
1	医療事故等の公表基準	5 5
2	医療事故等の発生状況	5 6
第 8	ご意見の概要	5 7
第 9	資料(網走の精神保健・医療)	5 8
1	オホーツク総合振興局管内の人口と面積	5 8
2	精神科医療機関の状況	5 8
3	精神保健福祉社会資源	5 8

第1 病院の概要

1 性格と機能

- ・道東北(北網)地域の精神医療の専門病院として、地域医療の公的使命を担っています。
- ・精神科デイケアを設置し、社会復帰のための機能を担っています。
- ・訪問看護を実施しています。
- ・精神科救急医療体制(オホーツクブロック)に参加しています。
- ・児童発達外来サテライト診療を実施しています。
- ・認知症疾患医療センターを設置し、認知症専門医療を実施しています。

2 主な事業

- (1) 入院及び外来患者に対する診療
道立病院として、精神障がい者に対する診療を実施
- (2) 社会復帰活動の実施
訪問看護活動、精神科デイケア、精神科ソーシャルワーク及び入院リハビリテーションを実施
- (3) 精神科救急医療体制への参加
オホーツクブロック精神科救急医療体制事業(緊急時の精神科医療確保のため行っている事業)に参加し、救急医療施設として緊急時に対応
- (4) 認知症専門医療
鑑別診断、急性期治療、専門医療相談の実施
- (5) 臨床研修の実施
臨床研修協力施設として、医師の卒後教育を実施
- (6) 実習学生等の指導
看護学生精神科看護実習等の指導を実施
- (7) 地域の保健・予防活動への支援
他関係機関に協力し、地域の保健予防活動、精神保健の普及活動を支援

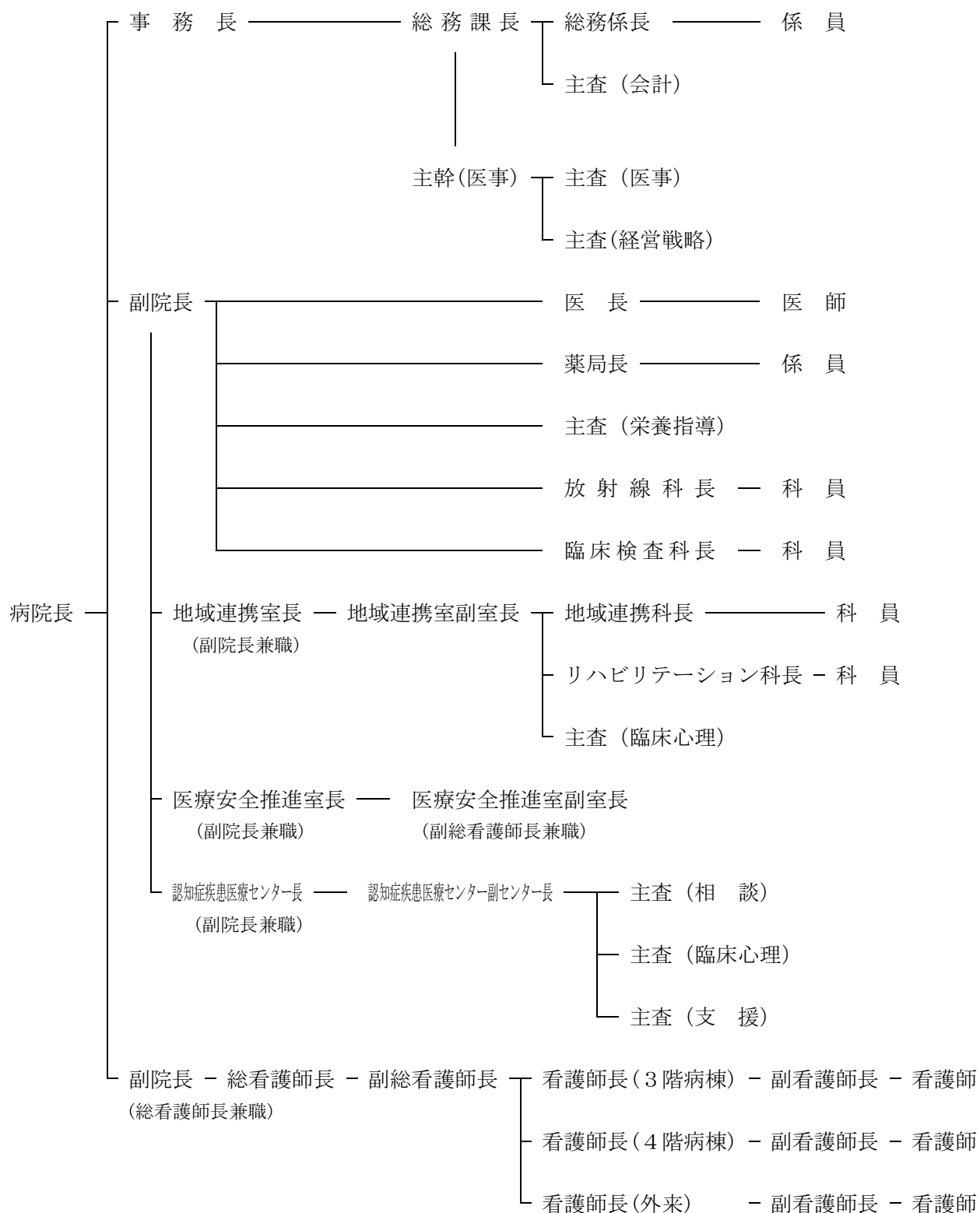
3 施設概況

- (1) 所在地 網走市向陽ヶ丘1丁目5番1号
- (2) 敷地面積 27,220.12m²
- (3) 施設 病 院 鉄筋コンクリート造4階・地下1階建て
延面積 6,187.95m²
デイケア棟 鉄筋コンクリート造地上2階・地下1階建て
延面積 886.18m²

4 診療概要 (2018年4月1日現在)

- (1) 診療科目 精神科
- (2) 病床数 105床
3階病棟(開放・閉鎖)56床 4階病棟(閉鎖)49床
- (3) デイケア 定員50名
- (4) 指 定 保険医療機関、生活保護法指定医療機関、国民健康療養取扱機関、
労災保険指定医療機関、応急入院指定医療機関、
結核予防法指定医療機関、精神科救急施設等指定医療機関、
医療観察法指定通院医療機関、指定自立支援医療機関(精神通院医療)
- (5) 看護体制 入院基本料 15:1(看護配置加算70%以上)、看護補助加算2

5 組織機構



（2018年4月1日現在）

6 職 員 数

2018年4月1日現在

職 種 配置箇所		医 師	看 護 師	准 看 護 師	薬 剤 師	放 射 線 技 師	臨 床 検 査 技 師	管 理 栄 養 士	作 業 療 法 士	心 理 判 定 員	P S W	事 務 職 員	運 転 技 術 員	公 務 補 員	調 理 員	そ の 他	合 計
医 局		5 (1)															5 (1)
看 護	外 来		5														5
	3 階 病 棟		28														28
	4 階 病 棟		17														17
薬 局					2											(1)	2 (1)
主査(栄養指導)								1									1
放 射 線 科						2											2
臨 床 検 査 科							3										3
地 域 連 携 室	地域連携科	(兼)	4							1							5
	リハビリテー ション科		1						2		1						4
	主査(臨床心 理)									1							1
総 務 課												9					9
認知症疾患医療 センター		(兼)	1								1						2
合 計		5 (1)	56		2	2	3	1	2	2	2	9				(1)	84 (2)

※ 院長及び副院長は医局に、事務長は総務課、副院長兼総看護師長・副総看護師長は外来に計上

※ ()は、医師は非常勤委嘱医、その他は一般職非常勤職員であり、外数

※ 臨時職員は含まない。

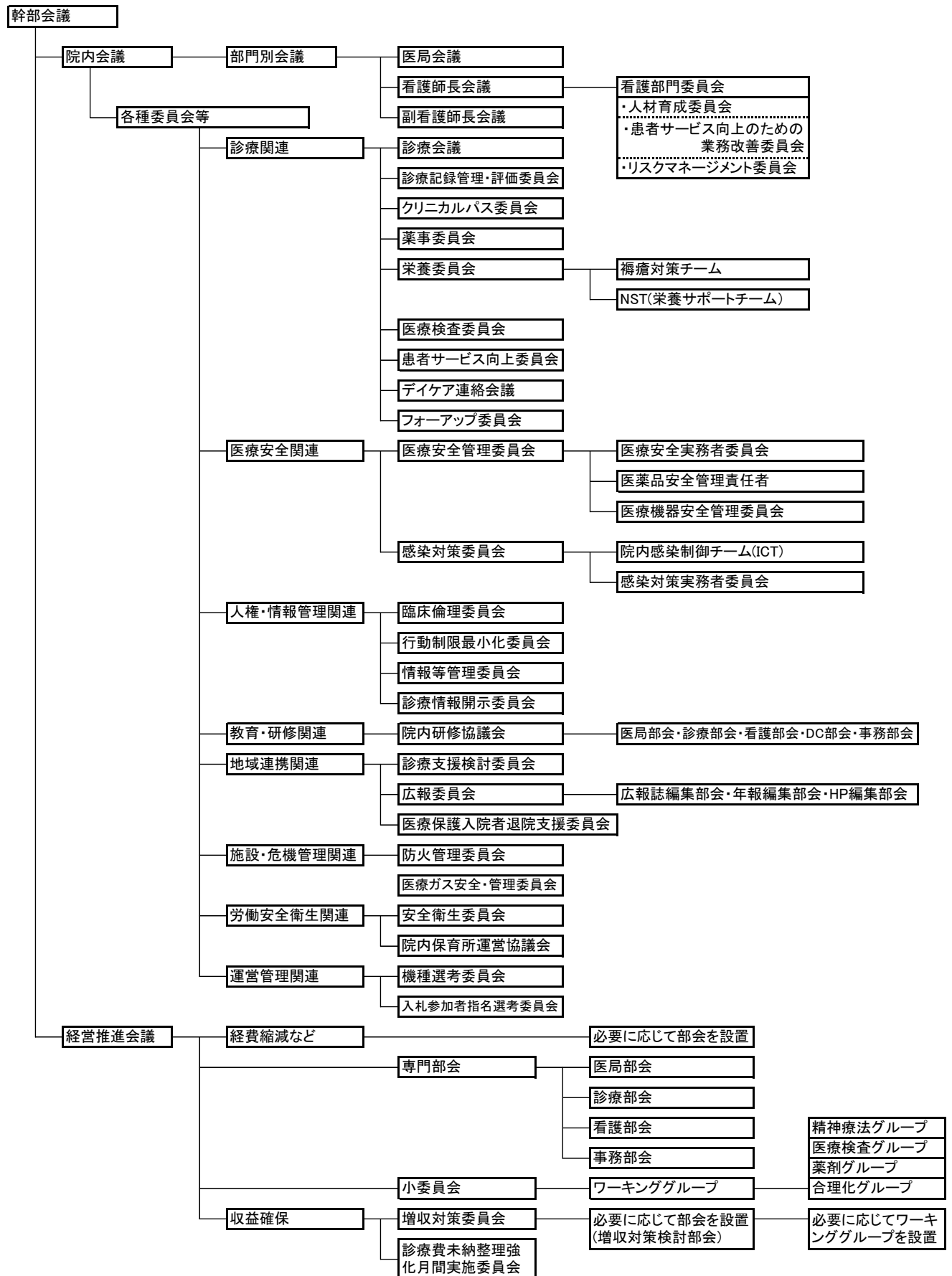
7 院内各種会議・委員会等の設置状況

(2018年4月1日現在)

名 称	所 掌 事 項
幹 部 会 議	病院の管理運営に関すること
院 内 会 議	病院の運営その他連絡調整に関すること
経 営 推 進 会 議	北海道病院事業改革プランの推進に関すること
医 局 会 議	医師の業務の連絡調整に関すること
看 護 師 長 会 議	看護業務の管理運営に関すること
副 看 護 師 長 会 議	看護部門の実践業務に関すること
診 療 会 議	医療業務の連絡調整に関すること
診 療 録 管 理 委 員 会	診療記録の作成、保存・管理及び評価に関すること
ク リ ニ カ ル パ ス 委 員 会	クリニカルパスの導入と運用・管理に関すること
薬 事 委 員 会	医薬品の採用、管理その他薬事に関すること
栄 養 委 員 会	栄養指導、患者給食及び食中毒予防に関すること
褥 瘡 対 策 チ ー ム	褥瘡対策に関すること
NST(栄養サポートチーム)	栄養管理対策に関すること
医 療 検 査 委 員 会	医療検査の適正化に関すること
患者サービス向上委員会	患者さまへのサービスの向上に関すること
デ イ ケ ア 連 絡 会 議	デイケアの運営に関すること
医 療 安 全 管 理 委 員 会	医療の安全管理対策の総合的な企画、実施に関すること
医 療 安 全 実 務 者 委 員 会	医療事故の調査、研究その他医療事故の防止に関すること
医 薬 品 安 全 管 理 責 任 者	医薬品の安全管理に関すること
医 療 機 器 安 全 管 理 委 員 会	医療機器の安全管理に関すること
感 染 対 策 委 員 会	院内感染防止体制の確立、対策の推進に関すること
感 染 対 策 実 務 者 委 員 会	院内感染の予防対策に関すること
院内感染制御チーム(ICT)	具体的、実践的院内感染対策の実行
臨 床 倫 理 委 員 会	臨床における倫理に関すること
行 動 制 限 最 小 化 委 員 会	行動制限の適正性の確保と最小化に関すること
情 報 等 管 理 委 員 会	院内情報の総合的管理に関すること
診 療 情 報 開 示 委 員 会	診療情報の開示に関すること
院 内 研 修 協 議 会	院内研修会に関すること
診 療 支 援 検 討 委 員 会	医療機関への診療支援に関すること
広 報 委 員 会	病院の広報に関すること
フ ォ ロ ー ア ッ プ 委 員 会	入院・外来患者さまの地域支援、長期入院患者さまの退院支援
医 療 保 護 入 院 者 退 院 支 援 委 員 会	入院期間の適正化・退院支援に関すること
増 収 対 策 委 員 会	診療報酬に係る査定等及び新たな加算の取組に関すること
診 療 費 未 納 整 理 強 化 月 間 実 施 委 員 会	診療費未納整理強化月間の推進に関すること。
防 火 管 理 委 員 会	防火管理に関すること
医 療 ガ ス 安 全 ・ 管 理 委 員 会	医療ガス設備の安全管理に関すること
安 全 衛 生 委 員 会	職員の安全衛生、健康管理及び職場環境に関すること
院 内 保 育 所 運 営 協 議 会	院内保育所の運営に関すること
機 種 選 考 委 員 会	医療機器等の機種の選考等に関すること
入 札 参 加 者 指 名 選 考 委 員 会	指名競争入札等の参加者の指名選考に関すること

会議・委員会等組織図

2018年4月1日現在



第2 業務概要

1 医 局

現在医師5名（精神保健指定医3名）にて院内の診療に当たっている。その他、個々の症例のカンファレンスに加え、各部署の代表者からなる会議、委員会、ワーキンググループへの参加を通じて、院内の他職種と連携を図っている。

院外においては移動精神保健相談、保健所、看護学院、刑務所などで診療、教育、啓発活動を実践している。長期入院患者の退院を積極的に支援する流れが広まり、地域生活支援センター、地域の保健師、訪問看護ステーション、グループホーム、共同作業所などと連携を取りながら、院外での患者の生活支援を検討し、退院促進にも努めている。

なお、外来診療は主治医制を基本とした予約制を導入しており、待ち時間の短縮並びに診察内容の充実を図っている。

(1) 医師配置状況(2018年4月1日現在)

病 院 長 藤 井 泰
副 院 長 中 村 一 朗
医 長 幡 賢
医 師 渡 邊 一 由
医 師 直 江 亮

(2) 外来診察医(2018年4月1日現在)

曜日	Ⅳ 診	Ⅲ 診	Ⅱ 診	Ⅰ 診	午後Ⅲ診	午後Ⅱ診
月	藤 井	中 村	幡	—	—	—
火	藤 井	幡	直 江	—	中 村	渡 邊
水	藤 井	幡	渡 邊	直 江	—	—
木	藤 井	中 村	渡 邊	—	幡	直 江
金	—	中 村	渡 邊	直 江	—	—

 枠は新患担当

(3) 担当医(2018年4月1日現在)

外来・デイケア 中 村 副院長
3階病棟 渡 邊 医 師
4階病棟 幡 医 長

- (4) 勤務体制
病棟・・・3交代制、複数夜勤、遅出勤務

- (5) 入院基本料
入院基本料 15：1
看護配置加算（看護師70%以上）
看護補助加算 2 50：1

- (6) 運営概要

① 看護職員関連

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
離職率（％）	7.9	17.5	7.0	8.8	1.8
平均勤続年数（年）	16.5	13.1	11.3	10.3	10.6
平均年休取得率（％）	52.5	49.3	33.7	31.4	37.2
平均代休取得率（％）	100.0	100.0	100.0	100.0	99.8
病気休暇取得率（％）	1.02	1.06	0.57	0.70	0.97

（年休取得率＝当該年度の取得日数／当該年度の付与日数）前年度からの繰越日数は含まない

② 医療安全関連

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
アクシデント発生率（％） （アクシデント＝レベル2以上）	6.0	12.6	13.9	9.8	13.0
針刺し事故発生件数（件）	0	0	0	1	0
公務災害認定発生件数（件）	0	2	0	1	0
褥瘡発生率（％）	8.40	11.00	3.18	2.27	0.34

* 褥瘡発生率＝当月の褥瘡発生者数÷当月の入院患者数＋前月の在院患者数

* 2013年度より医療事故等のレベル基準を改正

(6) 病棟の概要

病 棟 名	概 要
西棟 3 階 病棟	病棟は56床の混合病棟で閉鎖23床、開放33床に分かれている。 閉鎖フロアは主に老年期精神疾患患者が対象になっており、吸引・酸素の設備を設置している個室が6室、4床室が4室、ナースステーションに隣接した合併症室が1室あり、内科疾患合併症患者の身体管理も行っている。 患者は認知症の中等度から高度の症状を呈し、周辺症状である行動障害やせん妄の精神症状を伴い、薬物療法を中心に治療を行っている。生活全般における介助、身体管理、摂食嚥下訓練対象者が多い現状にあり、また、患者の日常生活援助や、認知症の症状による暴力等の対応から、看護師2人での対応を基本としている。患者の多くは自ら身体不調を訴えることが出来ないため、異常の早期発見、転倒、転落等安全面への配慮に努めている。また、合併症等による基礎疾患や薬物による副作用などで全身状態が変化しやすく、全身管理が必要となっており、日常生活能力の低下防止を目的とした作業療法プログラムや、ふまねっと運動を実施している。 開放フロアは、吸引・酸素の設備を設置した個室が5室、その他の個室が7室、4床室が5室、保護室が1室あり、開放時間は8時から18時までである。 患者は統合失調症のほか、感情障害、神経症、てんかん、依存症、人格障害などの方であり、患者の多くは、閉鎖病棟で急性期治療を終え、退院前のリハビリ目的の転入や、再燃を繰り返す長期入院の統合失調症の患者である。 患者の平均年齢は67.9歳で平均在院日数は192.1日（2017年度）。高齢化に伴い、身体合併症のある患者が増加しており、患者参加型の看護計画を実践し、日々の看護により自己の回復能力を高めるよう支援している。また、セルフケア能力の低下予防と向上を目的に作業療法士と連携し、個別性を考慮した作業療法プログラムの選択と参加を行っている。 退院支援については、患者に適した生活環境提供のため本人・家族と相談し退院前訪問看護の実施や施設職員・ケアマネージャーなど地域関係者との連携を積極的に行い、退院後も患者・家族が安心して生活できるように、他職種カンファレンスを行いながら支援している。
西棟 4 階 病棟	保護室5室を有する49床の閉鎖病棟である。患者の87%（2017年度）が統合失調症の患者であり、他には気分障害、神経症、依存症、人格障害、認知症などの方となっている。主に急性期症状を呈している患者や、統合失調症の慢性期でセルフケア能力が低下したり、再燃・緩解を繰り返す病状が不安定な患者の入院治療を行っている。 平均在院日数は183.0日（2017年度）で、慢性期患者の場合、病状の再燃を繰り返し入院が長期化している。長期入院に伴い、患者や家族の高齢化により、外泊・面会などの機会が減り、社会と接する機会が少なくなっている。また、生活習慣病等の身体疾患や合併症が重なり、セルフケア能力の低下、全身管理の必要な患者が増加し、治療・看護へのニーズが多様化してきている。社会環境の変化に伴い、精神疾患であっても地域で生活できる環境が整備されてきており、疾患教育や地域、他職種と連携し、早期退院に向けた支援を行っている。 また、退院支援として、作業療法やSST（社会生活技能訓練）等、他職種との連携を図り、対人関係能力の向上や日常生活課題の改善に向けて取り組んでいる。デイケアの院内試験通所や退院前訪問看護、地域との連携を実施し、退院後安定した生活が送れるように支援している。

(7) 外来の概要

精神科医療は、入院治療中心から地域で生活することへの支援に変化しており、精神疾患を持ちながらも症状をコントロールし、地域でその人らしく生活できることを目指した生活支援へと外来の役割が拡大されつつある。当院は道東北地域の精神医療の専門病院として、精神科救急医療体制（オホーツクブロック）に参加している。H28年に改築整備された際には、救急医療機能を強化し、オホーツク第三次医療圏における精神科救急医療の拠点としての役割を担っている。また、認知症疾患医療センターを設置し、認知症専門医療を行うとともに、児童発達外来のサテライト診療を実施している。

診療体制は患者サービスの向上を目的とし、新規外来患者、再来患者の完全予約診療を行っている。午前3診療（水曜日のみ4診療）、火・木曜日は午後の診療も行っている。

看護の主な業務は、診療介助、患者・家族相談、訪問看護、院内の医材料一元管理のため中央材料室を担当している。中央材料室業務は、各セクションの医療衛生材料及び器材の管理を行っている。地域との連携では、作業所・共同住居及び保健・福祉関係者とのサポート会議・ヘルパー会議などへの参加、デイケア会議への情報提供、アルコール依存症ミーティング（AA）の支援などを行っている。

3 薬 局

2013年から2015年の3年間は欠員のため1人体制で稼働していましたが、2016年4月に補充され2名体制となりました。やむなく業務を休止してした持参薬管理等を含む薬剤管理指導業務は、準備期間を経て同年10月より開始致しました。薬局では各部門、調剤薬局等と連携し以下の業務に取り組んでいます。

(1) 外来処方

当院では原則として院外処方箋を発行し、院外の保険調剤薬局でお薬を受け取っていただきます。

(2) 2017年度 月別業務量

	入院処方			入院注射	外来（院内）			外来注射	持参薬	院外処方	
	枚数	調剤数	延剤数	枚数	枚数	調剤数	延剤数	枚数	枚数	枚数	発行率
4月	508	1,685	10,224	284	83	94	808	189	131	1801	99.59
5月	565	1,785	10,884	239	5	12	272	200	120	1904	99.74
6月	539	1,810	10,892	182	7	18	398	182	147	1776	99.61
7月	486	1,663	8,738	150	7	18	279	181	120	1781	99.61
8月	553	1,985	11,806	172	7	15	396	198	122	1976	99.65
9月	467	1,531	9,650	134	8	13	236	177	114	1612	99.81
10月	541	1,828	9,490	161	16	12	368	184	149	1854	99.68
11月	524	1,806	9,938	142	11	13	198	208	167	1859	99.62
12月	502	1,623	10,707	129	9	20	310	237	176	1709	99.77
1月	437	1,431	8,268	113	9	14	262	178	138	1661	99.76
2月	368	1,193	7,586	94	10	13	226	174	96	1611	99.63
3月	402	1,268	8,203	133	20	9	473	191	76	1782	99.44
合計	5,892	19,608	116,386	1,933	240	166	4,226	2,299	1,556	21,326	99.33

※持参薬管理（入院）：H28年6月より薬局管理

(3) 疑義照会件数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	100	52	67	57	62	63	45	50	27	40	39	33	635

※H28年6月より薬局対応

(4) 薬剤管理指導業務件数

常勤薬剤師が平成28年4月より2名となり10月より開始

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	30	31	39	35	30	24	23	26	26	20	20	17	321

※退院時指導件数を含む

(5) その他

- ・医薬品等の情報提供（Drug news 発行）
- ・後発医薬品の使用促進、一般名処方箋の発行促進
- ・病棟配置医薬品・向精神薬の定数管理
- ・診療委員会／感染対策委員会／医療安全委員会／栄養委員会／薬事委員会 など

4 栄養指導部門

(1) 業務概況

2012年診療報酬の改定に伴い、栄養管理実施加算が廃止され、栄養管理体制は入院基本料に包括評価となった。このことを受けて当院では入院患者全員に栄養計画及び栄養評価を行っている。

また、褥瘡対策チーム・栄養サポートチームの一員として医師や看護師その他の職種と連携して低栄養、嚥下障害などに対応している。

摂食嚥下障害のある患者さんが近年増加傾向にあるので、患者さん個々の嚥下状態に合った食事作りに力を入れており、嚥下調整食の基準は日本摂食嚥下リハビリテーション学会嚥下調整食分類2013年版に準じている。

2016年6月の改築移転に伴い大量調理マニュアルに沿った調理施設となり、衛生管理が充実され、また、ブラストチラー（急速冷却機）の導入により嚥下調整食の調理作業が効率的に行えるようになった。

2012年6月から献立作成、調理業務全てを外部委託している。

(2) 特別食

身体合併症のある患者さんには特別食を提供している。種類は糖尿病食、肝臓食、腎臓食、膵臓食、貧血食、心臓食、低残渣食などである。菓子や清涼飲料水の多量摂取による高中性脂肪血症や肥満の患者さんが多い傾向である。

(3) 行事食

正月・節句・春秋の彼岸等、季節ごとの行事食のほか、月1回「おやつの日」をもうけている。また、毎月1回、誕生会として入院患者さんにお菓子を提供し誕生月の方にはバースディカードを添えている。

(4) 栄養指導

栄養指導が必要な患者さんには精神症状などで困難な場合を除き、栄養指導を実施している。高度肥満症、糖尿病、アルコールパスなどが主な指導である。集団栄養指導は主にデイケア通所者を対象に行っており、月1回程度デイケアプログラム「食と健康の講座」と称して、食事、運動など通所者の健康生活に役立つ内容で行っている。

(5) 食種別給食数(デイケア食含む)

(単位：食)

	常食	軟菜食	流動食	経管流動	特別食	嚥下調整食	合計
2013年度	45,517	48,021	528	1,758	21,778	884	118,486
2014年度	51,394	42,896	51	995	17,000	578	112,914
2015年度	36,274	46,375	752	1,012	19,640	1,095	105,148
2016年度	27,505	28,071	1,979	2,294	16,068	10,588	86,505
2017年度	26,413	10,688	325	3018	18,338	15,173	73,955

(6) 1食当たり平均給食数(デイケア食含む)

(単位：食)

	常食	軟菜食	流動食	経管流動	特別食	嚥下調整食	合計
2013年度	41.5	43.8	0.5	1.6	19.8	0.8	108.0
2014年度	46.9	39.1	—	0.9	15.5	0.5	102.9
2015年度	33.1	42.3	0.7	0.9	17.9	1.0	95.9
2016年度	25.1	25.6	1.8	2.1	14.7	9.7	79.0
2017年度	24.1	9.8	0.3	2.8	16.7	13.8	67.5

(7) 栄養指導件数(個別)

(単位：件)

年 度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
件 数	109	142	90	77	78

5 放射線科

(1) CT検査

CT検査は、初診時における頭部検査が主であるが、合併症を伴う患者にとって胸部及び腹部の検査は重要である。

昨年度と比べ、入院検査数は減少し外来検査数は増加した。

これは病床利用率低下により減少し、反面、もの忘れ外来数向上により増加したと考えられる。

(2) 一般撮影

一般撮影検査の主たるものは、入院時における胸部・腹部単純撮影である。

昨年度と比べ、入院検査数は大幅な減少となり外来患者数は若干減少し総体的に減少が大きくなった。

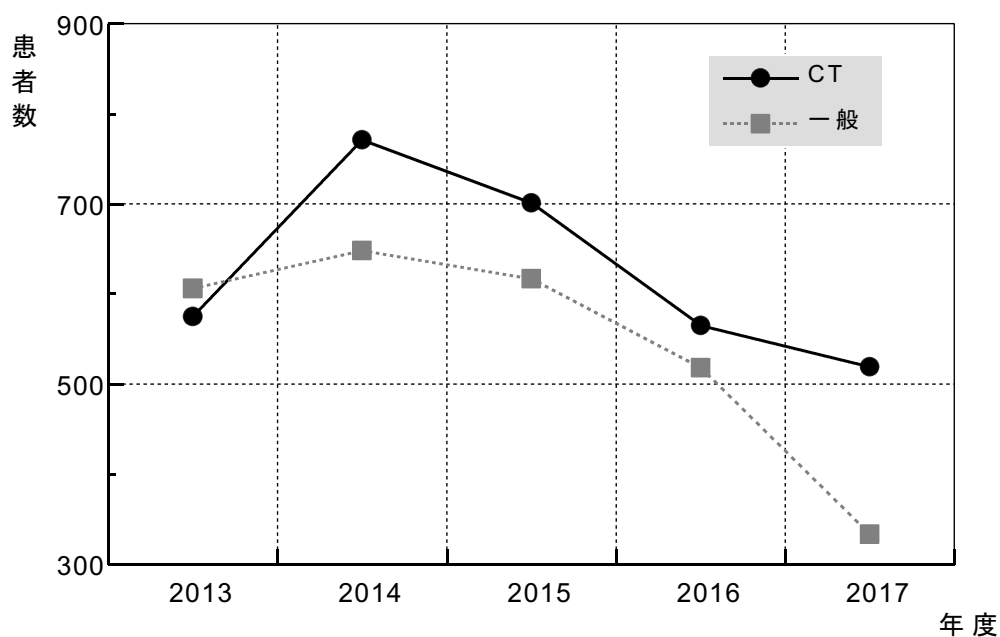
これは上記同様病床利用率低下が大きな要因として考えられる。

(3) CT・一般X線撮影検査患者数の推移（2013～2017年度 単位：人）

区分	入院・外来別	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
CT検査	入院	353	397	380	256	153
	外来	222	374	321	309	366
合 計		575	771	701	565	519
一般撮影	入院	493	545	516	404	227
	外来	113	103	101	114	106
合 計		606	648	617	518	333

表示文字列

CT検査及び一般撮影検査の患者数推移



6 臨床検査科

(1) 臨床検査業務概況

① 過去5年間（2013～2017）の臨床検査業務

検査業務全般は、2013年の外来パス検査の導入により、2年連続増加していたが2015年度・2016年度は対前年度比約10%の減となっている。

また、2016年6月の新病院移転に伴い、病床数が146床から105床に減少したこと。平均入院患者数が、2016年度の77.0人から、2017年度は66.1人に減少したこと。

この2点の影響により、年間入院患者検査数が2016年度の45090件から、2017年度は33482件と約26%の減少となり、検査合計件数の減少につながった。

② 2017年度の臨床検査業務

2017年7月より血中薬物濃度検査の推進を行った。

2013年度から血中薬物濃度検査数の推移は944件、761件、707件、622件であったが、2017年度は1216件と前年度比195%となった。

(2) 年度別臨床検査件数

年度	区分	生化学	免疫	血液	尿・便	細菌	薬物	生理			その他	合計
								脳波	心電図	その他		
2013	院内	69650	4503	19755	2463	12	933	41	421	1	1	97780
	委託	292	4	0	0	79	11	0	0	0	1	387
	合計	69942	4507	19755	2463	91	944	41	421	1	2	98167
2014	院内	74579	4617	20950	2516	12	759	38	419	2	0	103892
	委託	542	4	0	0	103	2	0	0	0	0	651
	合計	75121	4621	20950	2516	115	761	38	419	2	0	104543
2015	院内	67478	3308	19620	2542	12	692	29	407	2	2	94092
	委託	292	6	0	0	94	15	0	0	0	0	407
	合計	67770	3314	19620	2542	106	707	29	407	2	2	94499
2016	院内	61050	2976	18428	2075	12	573	34	303	7	7	85465
	委託	561	9	0	0	130	49	0	0	0	0	749
	合計	61611	2985	18428	2075	142	622	34	303	7	7	86214
2017	院内	50764	2207	16710	1795	14	972	25	189	3	0	72679
	委託	648	21	0	0	176	244	0	0	0	0	1089
	合計	51412	2228	16710	1795	190	1216	25	189	3	0	73768

7 地域連携室

(1) 地域連携室業務概況

地域連携室は平成 29 年 4 月 1 日に地域連携科と共に設置され、翌平成 30 年 4 月 1 日より、地域連携室副室長が専従になった。地域連携室は室長（副院長）、副室長、地域連携科長、地域連携科（看護師 3 名、精神保健福祉士 1 名）で構成されている。地域連携室業務では地域連携室副室長、精神保健福祉士が地域連携窓口となり対応している。地域連携科は主に訪問看護業務を中心としながら、地域の多職種会議への参加等を行い地域連携業務を行っている。地域連携室は地域の精神科医療のニーズを把握し、他の医療機関、関係施設、地域の多職種と連携強化を図り、患者さまが安心して地域で暮らすための精神科医療の提供を行っている。

【主な業務内容】

- ① 相談業務、前方支援、後方支援業務、医療観察制度対象者への支援等がある。

主な相談として地域の医療機関、居宅介護支援事業所、家族等からの病状に関する相談を受け、緊急性を判断し必要時医師と連携を図り、受診調整、関係機関との情報共有を行っている。後方支援では措置入院患者退院支援及び医療保護入院患者退院支援で、自治体や地域と連携し多職種との会議、カンファレンス等の調整・参加、本人・家族のニーズに沿った意思決定支援を行っている。

主な支援件数（2017 年度）

内 容	実施件数	内 容	実施件数
入院患者相談	1,182	他機関との連携	692
外来患者（家族）相談	567	地域移行支援（対象 4 名）	37

- ② 広報活動として斜網地域及び近隣の医療機関（9 件）、居宅介護事業所（16 件）等に訪問や医療福祉連携に関する会議に参加し、地域連携室設置の説明や「地域連携室のご案内」のパンフレットの作成・配布、病院ホームページの作成、院内マニュアル作成を行っている。

(2) 地域連携科の業務概況

訪問看護業務を行い、患者さまが安心して地域生活を継続できるよう院内及び地域の多職種と連携を図り、患者家族の思いに沿い、患者家族のストレスを大切に患者参加型看護計画の立案、目標共有を図り看護ケアを提供している。訪問看護は平日に 5 日間、1 日平均 10 ～ 15 件、訪問範囲は網走市内の他に大空町・美幌町・斜里町・小清水町・清里町などの市外訪問も実施している。2017 年 4 月 1 日現在、147 名の患者が利用されている。

訪問内容として病状の観察、服薬管理・通院状況、日常生活、金銭管理等についての相談や支援を行っている。また、院外他職種である作業所・共同住居・保健福祉関係者との情報共有を行い、その他、患者サポート会議（年 12 回）・ヘルパー会議（年 6 回）・デイケア会議（年 12 回）に参加している。院内においては病棟、外来との連絡会議、病棟カンファレンスの参加、病棟看護師との退院前訪問等を実施し、入院患者が安心して在宅生活に移行できるよう支援している。

訪問看護件数の推移

	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度
訪問看護件数	2,172	2,153	2,189	2,125	2,472
月平均（件数）	181	179	182	177	206

8 地域連携室 リハビリテーション科（デイケア部門）

当院デイケアは、オホーツク医療圏では初めて開設され、1996年7月1日に本格的に活動が開始された。2008年4月からは、デイケアショート利用を導入し、デイケアの半日利用を可能にすることにより、患者の利便性の向上を図っている。2012年1月から水曜日も通所日にあて、平日の毎日通所（週5日）となった。

施設区分は、「病院併設型・大規模デイケア」とされ、定員50名となっている。

スタッフは、医師（兼務）1名、看護師2名、精神保健福祉士1名、作業療法士1名、の合計5名で構成され、加えてプログラム講師7名を外部に委嘱している。2004年度より固定ボランティアを導入、現在2名が在籍している。

(1) 通所者（メンバー）

表1 利用者数 (単位：日、人)

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
開 所 日 数	242	241	239	242	244
延 べ 通 所 者 数	8,711	9,045	8,413	7,640	7,045
1 日 平 均 通 所 者 数	36.0	37.5	35.2	31.6	28.9
新 規 登 録 者 数	8	5	9	3	4
登 録 者 数	85	77	86	80	78
男 性	61	56	62	56	52
女 性	24	21	24	24	26

表2 疾病別 (単位：人)

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
統 合 失 調 症	67	60	72	66	64
躁 う つ 病	3	3	2	2	2
て ん か ん	3	3	2	1	
薬 物 依 存	2	1	1	1	
非 定 型 精 神 病	0	0	0	0	0
そ の 他	10	10	9	10	12

(2) デイケアプログラム

木曜午後は月に1回、「グループミーティング」、「茶道」「食と健康の講座」（管理栄養士の話）を実施しており、グループ活動の中で、毎日「ダンベル体操」を行っている。行事としては「クリスマス会」をメンバーと検討しながら行った。不定期に、メンバー主体で発案した行事（芝桜見学）も開催している。

表3 週間プログラム(2017年12月現在)

	月	火	水	木	金
9:00	朝 の 会	朝 の 会	朝 の 会	朝 の 会	朝 の 会
10:00	陶 芸	絵 画	やさしい体操	健 康 運 動	グループ活動
12:00	グループ活動	グループ活動	グループ活動	自 主 活 動	
	昼食・休憩	昼食・休憩	昼食・休憩	昼食・休憩	昼食・休憩
13:00	料 理	全体ミーティ	手 芸	週替プログ	七 宝
	グループ活動	ング SST	グループ活動	ラム	グループ活動
15:00		グループ活動		グループ活動	
16:00	終わりの会	終わりの会	終わりの会	終わりの会	終わりの会

9 地域連携室 リハビリテーション科（作業療法部門）

当院での精神科作業療法は、１９９４年７月に承認を得て開始となる。

医師（兼務）１名、作業療法士１名、助手（非常勤職員）１名で構成されていたが非常勤職員の退職に伴い助手の配置が２０１５年３月で終了となった。

作業療法の週間プログラムは、作業療法士が中心となって病棟内で行うものと、講師と共に生活療法室や訓練棟など病棟以外の場所で行うものがある。以前は月に２～３回の講師指導日のみの変則的な活動だったが、２００２年４月以降は毎週実施となる。

２００８年は第４病棟休床に伴い週間プログラムを変更し、定期的にカンファレンスを実施する状況となった。２００９年には高齢者の増加に伴い転倒予防のプログラムとして「ふまねっと運動」を導入した。病棟看護師で実施していたSSTだが２０１５年から作業療法士も加わるようになりグループホームやケアホームなどの施設を見学するなどし長期入院者が退院後の生活を現実的に考えられるよう取り組んだ。

改築移転にあわせ２０１６年６月から週間プログラム変更、年齢や状態に合わせ参加しやすいよう構成した。

２０１７年度から組織機構が変わり作業療法科から地域連携室リハビリテーション科作業療法部門となる。

表1 週間プログラム(2017年4月～)

	月	火	水	木	金
9:45	4F病棟 SST	体力作り	4F病棟 ふまねっと運動	3F病棟 ふまねっと運動	創作活動
11:45					
14:00	調理	悠々音楽会	4F病棟 買い物トレーニング	4F病棟音楽会	悠々体操
16:00					

表2 活動状況

		2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
開催日数		228	232	224	224	223
参加数		5,360	4,801	5,173	4,813	5,088
算定数		4,877	4,406	4,980	4,380	4,558
一日平均	参加数	23.5	20.7	23.1	21.5	22.8
	算定数	21.5	19.0	22.2	19.6	20.4

10 地域連携室 臨床心理部門

臨床心理業務は、心理学の知識や技法をベースとして、患者の心理・行動面の障害の治療や援助を行うものである。具体的には以下のとおり、心理アセスメントの一つとしての心理検査や各種の心理療法の提供などが挙げられる。

認知症疾患医療センターの配属として、もの忘れ外来にて認知症の鑑別診断や認知機能の確認のための認知機能検査を行う他に、一般外来や入院患者に対しても認知機能検査を実施している。また、認知症以外の患者に対しても知能検査や人格検査などの心理検査やカウンセリング業務を行っている。

さらに、平成15年度から継続している児童発達外来サテライト診療として、対象者や家族への対応を継続している。

(1) 心理検査 及び 認知機能検査

心理検査は、知能検査を中心に、各種人格検査や認知機能検査を実施することで、診断や治療、リハビリテーション等のための重要な情報の一つになる。

認知機能検査は、認知症の鑑別診断として、また認知機能の程度を把握していくために実施している。限られた時間内に患者の負担少なく効率よく行うために、検査バッテリーの組み方を検討しながら実施している。

表1 今年度実施した主な心理検査

WAIS-Ⅲ成人知能検査	CWISC-Ⅲ知能検査	PF-スタディ
ロールシャッハテスト	ベンダーゲシュタルトテスト	AQ
CAARS	Y-G性格検査	PARS
PARS-TR	Conners 3	

今年度実施した認知機能検査

ADAS	ベントン視覚記銘検査	前頭葉機能検査(FAB)
時計描画テスト	ノイズパレイドリアテスト	

表2 心理検査件数 (人)

	認知症検査				一般心理検査			合計
	外来	もの忘れ外来	入院	小計	外来	入院	小計	
2015年度	11	149	25	185	31	44	75	260
2016年度	20	100	11	131	86	28	114	245
2017年度	2	127	5	134	69	13	82	216

(2) 個人心理療法

個人心理療法は、支持的カウンセリングを主体に、認知行動療法的技法などを取り入れながら実施している。対象者は主に統合失調症圏以外の患者であり、就学・就労中の方も多。月1回～2回の頻度で実施している。自分自身を客観的に捉えていく自己分析力を高め、コーピング力を身につけていくことが目標である。

表3 個人心理療法の件数

	外来患者	入院患者	合計
2015年度	291	14	305
2016年度	278	12	290
2017年度	126	0	126

(3) 児童発達外来サテライト診療

発達障害圏の7名の対象者に対して 毎月第4木曜日に継続実施している。主に母親に対して、対象となるお子さんの日常生活行動に対する対応の仕方等についての指導が中心である。

実施回数：12回 46件

11 認知症疾患医療センター

北海道立向陽ヶ丘病院認知症疾患医療センターは、オホーツク三次保健医療福祉圏における認知症疾患の保健医療水準向上を図るためのものであり、具体的には保健・医療・福祉・介護機関等と連携し、鑑別診断、急性期医療、専門医療相談等を実施するとともに、関係者への研修等を行うこととしています。

<実績>

1 もの忘れ外来における診療について

単位：人

	新規患者	専門医療相談	急性期入院	医療機関からの紹介
2015 年度	166	184	10	45
2016 年度	161	318	19	61
2017 年度	175	385	10	83

2 もの忘れ外来新規患者各内訳

1) 居住地

単位：人（％）

	網走市	斜里町	清里町	小清水町	大空町	その他
2015 年度	96 (59)	30 (18)	4 (2)	7 (4)	10 (6)	19 (11)
2016 年度	100 (63)	23 (14)	7 (4)	7 (4)	16 (10)	8 (5)
2017 年度	89 (51)	23 (13)	12 (7)	12 (7)	13 (7)	26 (15)

2) 年齢

単位：人（％）

	～50	60～	70～	80～	90～
2015 年度	5 (3)	13 (8)	40 (24)	80 (48)	28 (17)
2016 年度	4 (3)	15 (9)	56 (35)	62 (38)	24 (15)
2017 年度	1 (1)	21 (12)	55 (31)	80 (46)	18 (10)

3) 疾患

単位：人（％）

	アルツハイマー型認知症	血管性認知症	前頭側頭型認知症	レビー小体型認知症	混合性認知症	軽度認知障害	その他
2015 年度	113 (68)	7 (4)	1 (1)	5 (3)	1 (1)	4 (2)	35 (21)
2016 年度	94 (56)	4 (3)	2 (2)	2 (2)	1 (1)	10 (6)	48 (30)
2017 年度	84 (47)	7 (4)	1 (1)	2 (2)	－	12 (7)	69 (39)

3 専門医療相談内容

単位：人（％）

	もの忘れ外来受診	病状・症状	その他
2015 年度	171 (93)	7 (4)	6 (3)
2016 年度	190 (59)	40 (13)	88 (28)
2017 年度	212 (55)	38 (10)	135 (35)

4 地域啓蒙活動について

- 1) 老人クラブ各会員向け 6 件（大空町湖南老人クラブ他）
- 2) 地域住民向け講演会 1 件（平成 29 年度斜里町生きがい大学公民館専門課程）
- 3) イベント参加 5 件（第 30 回ふれあい広場きよさと他）

5 研修会の開催について

- 1) 研修会講師派遣 1 件（平成 29 年度斜里町生きがい大学公民館専門課程）
- 2) 医療及び介護関係者等への研修会 3 件（認知症疾患事例検討会他）

第3 診療概況

1) 年度別、病棟別入院患者動態

(入院患者数、1日平均患者数、入退院患者数、病床利用率、平均在院日数)

	病棟 (病床数)	区 分	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
新 病 院	3階病棟 (56)	延入院患者数				10,891	11,600
		1日平均患者数				38.2	31.8
		入院患者数				73	47
		退院患者数				100	73
		病床利用率				68.2	56.8
		平均在院日数				124.8	192.1
	4階病棟 (49)	延入院患者数				10,713	12,533
		1日平均患者数				37.6	34.3
		入院患者数				83	71
		退院患者数				60	65
		病床利用率				76.7	70.1
		平均在院日数				149.0	183.4
旧 病 院	第1病棟 (35)	延入院患者数	8,802	9,631	9,144	1,679	
		1日平均患者数	24.1	26.4	25.0	21.0	
		入院患者数	77	73	51	12	
		退院患者数	74	63	63	11	
		病床利用率	68.9	75.4	71.4	60.0	
		平均在院日数	115.6	140.7	159.3	145.0	
	第2病棟 (57)	延入院患者数	14,495	12,892	11,233	2,302	
		1日平均患者数	39.7	35.3	30.7	28.8	
		入院患者数	72	67	61	10	
		退院患者数	100	115	109	18	
		病床利用率	69.7	62.0	53.8	50.5	
		平均在院日数	167.4	140.4	130.9	163.1	
	第3病棟 (54)	延入院患者数	15,504	14,531	13,906	2,502	
		1日平均患者数	42.5	39.8	38.0	31.3	
		入院患者数	105	111	121	23	
		退院患者数	82	67	90	13	
		病床利用率	78.7	73.7	70.4	57.9	
		平均在院日数	164.9	162.5	131.0	138.3	
合 計		延入院患者数	38,801	37,054	34,283	28,087	24,133
		1日平均患者数	106.3	101.5	93.7	77.0	66.1
		入院患者数	254	251	233	201	118
		退院患者数	256	245	262	202	138
		病床利用率	72.8	69.5	64.3	67.5	58.0
		平均在院日数	151.2	148.4	137.5	138.4	187.5

※ 旧病院体制（146床）、2016年6月20日より新病院体制（105床）

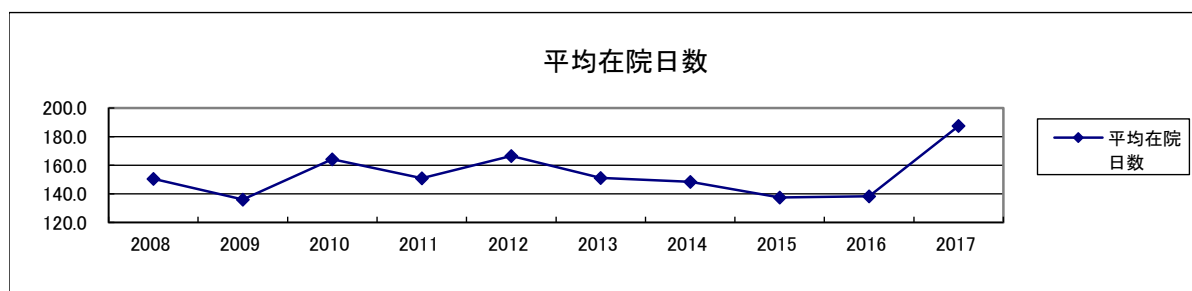
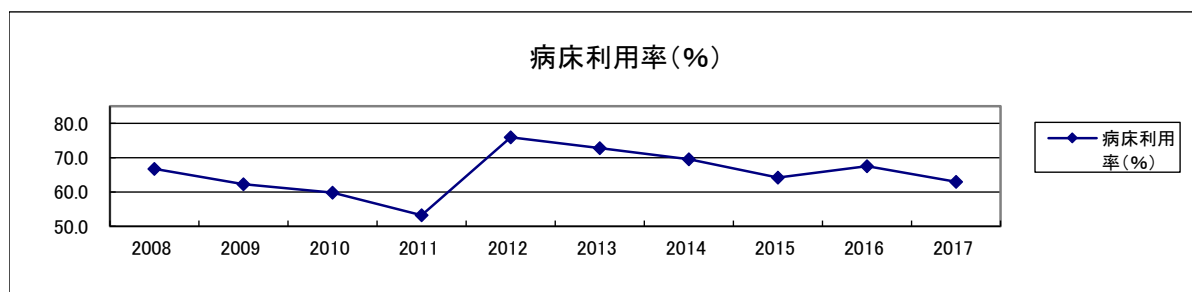
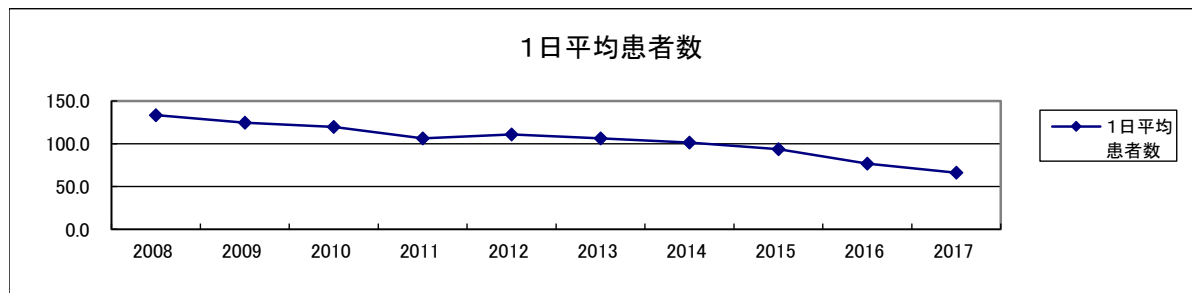
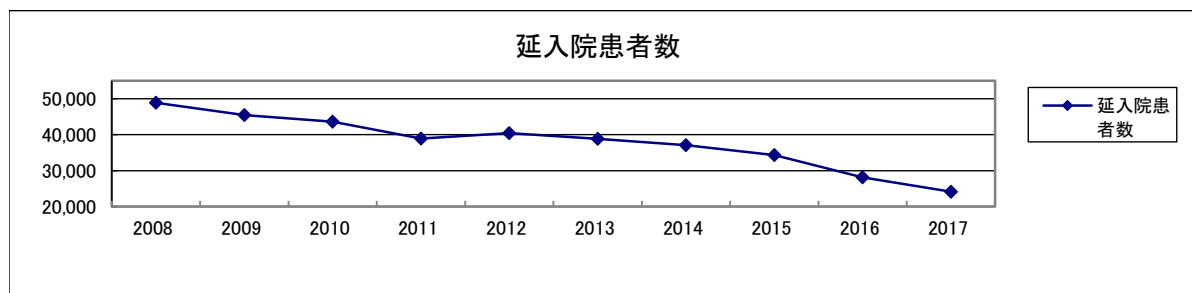
年 間 の 患 者 動 態

延入院患者数・1日平均患者数・入院患者数・病床利用率・平均在院日数 (2008～2017年度)

区分	延入院患者数	1日平均患者数	入院患者数	退院患者数	病床利用率(%)	平均在院日数
2008	48,874	133.5	311	334	66.8	150.5
2009	45,429	124.5	336	327	62.2	136.1
2010	43,643	119.6	258	270	59.8	164.3
2011	38,960	106.4	258	255	53.2	150.9
2012	40,467	110.9	238	245	75.9	166.6
2013	38,801	106.3	254	256	72.8	151.2
2014	37,054	101.5	251	245	69.5	148.4
2015	34,283	93.7	233	262	64.2	137.5
2016	28,087	77.0	201	202	67.5	138.4
2017	24,133	66.1	118	138	63.0	187.5

(注) 1 2012年3月15日、許可病床数が200床から146床へ変更

(注) 2 2016年6月20日、許可病床数が146床から105床へ変更



２－１ 新入院患者の病名別・形態別患者数及び割合

２０１３年度

(単位：人)

病 名	措置入院	医療保護 入 院	任 意 入 院	その他	合 計
F00 アルツハイマー型認知症		51	7		58
F01 血管性認知症		7	6		13
F02 その他の疾患による認知症		1	5		6
F05 せん妄		2			2
F0 (上記以外の疾患)		2	6		8
F10 アルコール使用による障害		6	7		13
F1 (上記以外の疾患)					
F20 統合失調症	4	27	48		79
F2 (上記以外の疾患)					
F30 躁病エピソード					
F31 双極性感情障害		4	7		11
F32 うつ病エピソード		2	2		4
F33 反復性うつ病性障害					
F3 (上記以外の疾患)		9	19		28
F40 恐怖性不安障害					
F41 他の不安障害			2		2
F42 強迫性障害					
F43 重度ストレス反応及び適応障害		1			1
F44 解離性（転換性）障害					
F45 身体表現性障害					
F4 (上記以外の疾患)					
F50 摂食障害			2		2
F51 非器質性睡眠障害					
F5 (上記以外の疾患)					
F6 成人のパーソナリティ及び行動の障害		2			2
F7 精神遅滞		7	1		8
F84 広汎性発達障害					
F8 (上記以外の疾患)					
F90 多動性障害					
F9 (上記以外の疾患)					
G40 てんかん		4	2		6
その他		9	2		11
合 計	4	134	116		254
構成比%	1.6	52.8	45.7		100.0

2014年度

(単位：人)

病 名	措置入院	医療保護 入 院	任 意 入 院	その他	合 計
F00 アルツハイマー型認知症		37	10		47
F01 血管性認知症		7	4		11
F02 その他の疾患による認知症		9	3		12
F05 せん妄		2			2
F0 (上記以外の疾患)					
F10 アルコール使用による障害		3	11		14
F1 (上記以外の疾患)			3		3
F20 統合失調症		39	49		88
F2 (上記以外の疾患)		2	2		4
F30 躁病エピソード					
F31 双極性感情障害		4	14		18
F32 うつ病エピソード		4	13		17
F33 反復性うつ病性障害			2		2
F3 (上記以外の疾患)		1	1		2
F40 恐怖性不安障害					
F41 他の不安障害		1	6		7
F42 強迫性障害					
F43 重度ストレス反応及び適応障害					
F44 解離性（転換性）障害					
F45 身体表現性障害		2	4		6
F4 (上記以外の疾患)					
F50 摂食障害		2	1		3
F51 非器質性睡眠障害					
F5 (上記以外の疾患)					
F6 成人のパーソナリティ及び行動の障害		3	3		6
F7 精神遅滞			2		2
F84 広汎性発達障害		1			1
F8 (上記以外の疾患)					
F90 多動性障害					
F9 (上記以外の疾患)					
G40 てんかん		1	1		2
その他		3	1		4
合 計		121	130		251
構成比%		48.2	51.8		100.0

2015年度

(単位：人)

病 名	措置入院	医療保護 入 院	任 意 入 院	その他	合 計
F00 アルツハイマー型認知症		40	7		47
F01 血管性認知症		6	4		10
F02 その他の疾患による認知症		3	1		4
F05 せん妄		2			2
F0 (上記以外の疾患)					
F10 アルコール使用による障害		4			4
F1 (上記以外の疾患)		1	1		2
F20 統合失調症	1	42	42		85
F2 (上記以外の疾患)		3	4		7
F30 躁病エピソード		1			1
F31 双極性感情障害		11	10		21
F32 うつ病エピソード		9	19		28
F33 反復性うつ病性障害		1	2		3
F3 (上記以外の疾患)			1		1
F40 恐怖性不安障害					
F41 他の不安障害			4		4
F42 強迫性障害		1			1
F43 重度ストレス反応及び適応障害		1			1
F44 解離性（転換性）障害			2		2
F45 身体表現性障害					
F4 (上記以外の疾患)					
F50 摂食障害					
F51 非器質性睡眠障害					
F5 (上記以外の疾患)					
F6 成人のパーソナリティ及び行動の障害		2	1		3
F7 精神遅滞		2	2		4
F84 広汎性発達障害					
F8 (上記以外の疾患)					
F90 多動性障害					
F9 (上記以外の疾患)					
G40 てんかん			2		2
その他		1			1
合 計	1	130	102		233
構成比%	0.4	55.8	43.8		100.0

2-1 新入院患者の病名別・形態別患者数及び割合

2016年度

(単位：人)

病 名	措置入院	医療保護 入 院	任 意 入 院	その他	合 計
F00 アルツハイマー型認知症		33	4		37
F01 血管性認知症		13	1		14
F02 その他の疾患による認知症		2	1		3
F05 せん妄		5	1		6
F0 (上記以外の疾患)		5	1		6
F10 アルコール使用による障害		4	2		6
F1 (上記以外の疾患)		2			2
F20 統合失調症	1	41	25		67
F2 (上記以外の疾患)		1			1
F30 躁病エピソード					
F31 双極性感情障害		9	4		13
F32 うつ病エピソード		7	9		16
F33 反復性うつ病性障害			2		2
F3 (上記以外の疾患)		1			1
F40 恐怖性不安障害					
F41 他の不安障害		3	5		8
F42 強迫性障害					
F43 重度ストレス反応及び適応障害		1			1
F44 解離性（転換性）障害					
F45 身体表現性障害		1	1		2
F4 (上記以外の疾患)					
F50 摂食障害		1			1
F51 非器質性睡眠障害					
F5 (上記以外の疾患)					
F6 成人のパーソナリティ及び行動の障害		3			3
F7 精神遅滞		3	2		5
F84 広汎性発達障害		2			2
F8 (上記以外の疾患)					
F90 多動性障害					
F9 (上記以外の疾患)					
G40 てんかん		4	1		5
その他					
合 計	1	141	59		201
構成比%	0.5	70.1	29.4		100.0

2017年度

(単位：人)

病 名	措置入院	医療保護 入 院	任 意 入 院	その他	合 計
F00 アルツハイマー型認知症		15	5		20
F01 血管性認知症		3			3
F02 その他の疾患による認知症		1	1		2
F05 せん妄		3	1		4
F0 (上記以外の疾患)		5			5
F10 アルコール使用による障害		4			4
F1 (上記以外の疾患)		2			2
F20 統合失調症	1	23	23		47
F2 (上記以外の疾患)		3	1		4
F30 躁病エピソード					
F31 双極性感情障害		2	2		4
F32 うつ病エピソード		1	5		6
F33 反復性うつ病性障害		2	2		4
F3 (上記以外の疾患)					
F40 恐怖性不安障害					
F41 他の不安障害			3		3
F42 強迫性障害					
F43 重度ストレス反応及び適応障害			1		1
F44 解離性（転換性）障害		2	1		3
F45 身体表現性障害					
F4 (上記以外の疾患)					
F50 摂食障害		1			1
F51 非器質性睡眠障害					
F5 (上記以外の疾患)					
F6 成人のパーソナリティ及び行動の障害		1			1
F7 精神遅滞		2	1		3
F84 広汎性発達障害					
F8 (上記以外の疾患)					
F90 多動性障害					
F9 (上記以外の疾患)					
G40 てんかん		1			1
その他					
合 計	1	71	46		118
構成比%	0.8	60.2	39.0		100.0

2－2 新入院患者の入院形態別人数と構成割合の年次推移

	2013年度		2014年度		2015年度		2016年度		2017年度	
	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)
措置入院	4	1.6%			1	0.4%	1	0.5%	1	0.8%
医療保護入院	134	52.8%	121	48.2%	130	55.8%	141	70.1%	71	60.2%
任意入院	116	45.7%	130	51.8%	102	43.8%	59	29.4%	46	39.0%
その他										
合 計	254	100.0%	251	100.0%	233	100.0%	201	100.0%	118	100.0%

3-1 新入院患者の病名別・年齢構成

2013年度

(単位:人)

病 名 (ICD-10)	全 体								占有率 (%)
	～19 才	20～ 29才	30～ 39才	40～ 49才	50～ 59才	60～ 69才	70才 ～	合計	
F00 アルツハイマー型認知症						1	57	58	22.8
F01 血管性認知症				7	1	4	1	13	5.1
F02 その他の疾患による認知症					2		4	6	2.4
F05 せん妄							2	2	0.8
F0 (上記以外の疾患)						2	6	8	3.1
F10 アルコール使用による障害			3	2	2	3	3	13	5.1
F1 (上記以外の疾患)									
F20 統合失調症	1	12	12	16	13	17	8	79	31.1
F2 (上記以外の疾患)									
F30 躁病エピソード									
F31 双極性感情障害		1	1	1	3	4	1	11	4.3
F32 うつ病エピソード		1		1		1	1	4	1.6
F33 反復性うつ病性障害									
F3 (上記以外の疾患)		2		4	6	8	8	28	11.0
F40 恐怖性不安障害									
F41 他の不安障害				1	1			2	0.8
F42 強迫性障害									
F43 重度ストレス反応及び 適応障害			1					1	0.4
F44 解離性(転換性)障害									
F45 身体表現性障害									
F4 (上記以外の疾患)									
F50 摂食障害		2						2	0.8
F51 非器質性睡眠障害									
F5 (上記以外の疾患)									
F6 成人のパーソナリティー及び 行動の障害				1			1	2	0.8
F7 精神遅滞	1	3	2	1		1		8	3.1
F84 広汎性発達障害									
F8 (上記以外の疾患)									
F90 多動性障害									
F9 (上記以外の疾患)									
G40 てんかん		1		3			2	6	2.4
その他		4	3	2			2	11	4.3
合 計	2	26	22	39	28	41	96	254	100.0
構成比%	0.8	10.2	8.7	15.4	11.0	16.1	37.8	100.0	

2014年度

(単位:人)

病 名 (ICD-10)	全 体								合計	占有率 (%)
	～19 才	20～ 29才	30～ 39才	40～ 49才	50～ 59才	60～ 69才	70才 ～			
F00 アルツハイマー型認知症						3	44	47	18.7	
F01 血管性認知症				3			8	11	4.4	
F02 その他の疾患による認知症						2	10	12	4.8	
F05 せん妄							2	2	0.8	
F0 (上記以外の疾患)										
F10 アルコール使用による障害				1	3	7	3	14	5.6	
F1 (上記以外の疾患)				2	1			3	1.2	
F20 統合失調症		5	11	20	21	26	5	88	35.1	
F2 (上記以外の疾患)						1	3	4	1.6	
F30 躁病エピソード										
F31 双極性感情障害			3		4	4	7	18	7.2	
F32 うつ病エピソード		1	2	4	4	1	5	17	6.8	
F33 反復性うつ病性障害						2		2	0.8	
F3 (上記以外の疾患)		1	1					2	0.8	
F40 恐怖性不安障害										
F41 他の不安障害		1	1	1	2		2	7	2.8	
F42 強迫性障害										
F43 重度ストレス反応及び 適応障害										
F44 解離性(転換性)障害										
F45 身体表現性障害	1					2	3	6	2.4	
F4 (上記以外の疾患)										
F50 摂食障害	1			2				3	1.2	
F51 非器質性睡眠障害										
F5 (上記以外の疾患)										
F6 成人のパーソナリティー及び 行動の障害		4	1		1			6	2.4	
F7 精神遅滞				2				2	0.8	
F84 広汎性発達障害		1						1	0.4	
F8 (上記以外の疾患)										
F90 多動性障害										
F9 (上記以外の疾患)										
G40 てんかん						1	1	2	0.8	
その他						3	1	4	1.6	
合 計	2	13	19	35	36	52	94	251	100.0	
構成比%	0.8	5.2	7.6	13.9	14.3	20.7	37.5	100.0		

2015年度

(単位:人)

病 名 (ICD-10)	全 体								合計	占有率 (%)
	～19 才	20～ 29才	30～ 39才	40～ 49才	50～ 59才	60～ 69才	70才 ～			
F00 アルツハイマー型認知症						2	45	47	20.2	
F01 血管性認知症				2		2	6	10	4.3	
F02 その他の疾患による認知症							4	4	1.7	
F05 せん妄						1	1	2	0.9	
F0 (上記以外の疾患)										
F10 アルコール使用による障害				1	1	2		4	1.7	
F1 (上記以外の疾患)		1		1				2	0.9	
F20 統合失調症	2	6	11	13	19	25	9	85	36.5	
F2 (上記以外の疾患)					1	1	6	8	3.4	
F30 躁病エピソード						1		1	0.4	
F31 双極性感情障害	1	1	1	2	4	7	5	21	9.0	
F32 うつ病エピソード			4	3	5	7	9	28	12.0	
F33 反復性うつ病性障害					1	2		3	1.3	
F3 (上記以外の疾患)							1	1	0.4	
F40 恐怖性不安障害										
F41 他の不安障害		1	1			1	1	4	1.7	
F42 強迫性障害							1	1	0.4	
F43 重度ストレス反応及び 適応障害				1				1	0.4	
F44 解離性(転換性)障害				1			1	2	0.9	
F45 身体表現性障害										
F4 (上記以外の疾患)										
F50 摂食障害										
F51 非器質性睡眠障害										
F5 (上記以外の疾患)										
F6 成人のパーソナリティー及び 行動の障害		2						2	0.9	
F7 精神遅滞		1		2	1			4	1.7	
F84 広汎性発達障害										
F8 (上記以外の疾患)										
F90 多動性障害										
F9 (上記以外の疾患)										
G40 てんかん				2				2	0.9	
その他						1		1	0.4	
合 計	3	12	17	28	32	52	89	233	100.0	
構成比%	1.3	5.2	7.3	12.0	13.7	22.3	38.2	100.0		

2016年度

(単位:人)

病 名 (ICD-10)	全 体								合計	占有率 (%)
	～19 才	20～ 29才	30～ 39才	40～ 49才	50～ 59才	60～ 69才	70才 ～			
F00 アルツハイマー型認知症						3	34	37	18.4	
F01 血管性認知症				1	1	2	10	14	7.0	
F02 その他の疾患による認知症							3	3	1.5	
F05 せん妄				1		1	4	6	3.0	
F0 (上記以外の疾患)						4	2	6	3.0	
F10 アルコール使用による障害						4	2	6	3.0	
F1 (上記以外の疾患)				2				2	1.0	
F20 統合失調症			15	15	15	11	11	67	33.3	
F2 (上記以外の疾患)						1		1	0.5	
F30 躁病エピソード										
F31 双極性感情障害		2		1	2	2	6	13	6.5	
F32 うつ病エピソード		1	2	2	2	4	5	16	8.0	
F33 反復性うつ病性障害						1	1	2	1.0	
F3 (上記以外の疾患)				1				1	0.5	
F40 恐怖性不安障害										
F41 他の不安障害		4		1		1	2	8	4.0	
F42 強迫性障害										
F43 重度ストレス反応及び 適応障害			1					1	0.5	
F44 解離性(転換性)障害										
F45 身体表現性障害							2	2	1.0	
F4 (上記以外の疾患)										
F50 摂食障害		1						1	0.5	
F51 非器質性睡眠障害										
F5 (上記以外の疾患)										
F6 成人のパーソナリティー及び 行動の障害		3						3	1.5	
F7 精神遅滞		1		3		1		5	2.5	
F84 広汎性発達障害		2						2	1.0	
F8 (上記以外の疾患)										
F90 多動性障害										
F9 (上記以外の疾患)										
G40 てんかん		2			1	1	1	5	2.5	
その他										
合 計		16	18	27	21	36	83	201	100.0	
構成比%		8.0	9.0	13.4	10.4	17.9	41.3	100.0		

2017年度

(単位:人)

病 名 (ICD-10)	全 体								合計	占有率 (%)
	～19 才	20～ 29才	30～ 39才	40～ 49才	50～ 59才	60～ 69才	70才 ～			
F00 アルツハイマー型認知症				1	1	2	16	20	16.9	
F01 血管性認知症						1	2	3	2.5	
F02 その他の疾患による認知症							2	2	1.7	
F05 せん妄							4	4	3.4	
F0 (上記以外の疾患)						1	4	5	4.2	
F10 アルコール使用による障害					1		3	4	3.4	
F1 (上記以外の疾患)				2				2	1.7	
F20 統合失調症	1	3	3	6	14	14	6	47	39.8	
F2 (上記以外の疾患)		1		1		1	1	4	3.4	
F30 躁病エピソード										
F31 双極性感情障害				1		2	1	4	3.4	
F32 うつ病エピソード		1		1	2	1	1	6	5.1	
F33 反復性うつ病性障害							4	4	3.4	
F3 (上記以外の疾患)										
F40 恐怖性不安障害										
F41 他の不安障害		1					2	3	2.5	
F42 強迫性障害										
F43 重度ストレス反応及び 適応障害		1						1	0.8	
F44 解離性(転換性)障害	2			1				3	2.5	
F45 身体表現性障害										
F4 (上記以外の疾患)										
F50 摂食障害							1	1	0.8	
F51 非器質性睡眠障害										
F5 (上記以外の疾患)										
F6 成人のパーソナリティー及び 行動の障害			1					1	0.8	
F7 精神遅滞		1	2					3	2.5	
F84 広汎性発達障害										
F8 (上記以外の疾患)										
F90 多動性障害										
F9 (上記以外の疾患)										
G40 てんかん							1	1	0.8	
その他										
合 計	3	8	6	13	18	22	48	118	100.0	
構成比%	2.5	6.8	5.1	11.0	15.3	18.6	40.7	100.0		

3-2 新入院患者の病名別人数と構成割合の年次推移

	2013年度		2014年度		2015年度		2016年度		2017年度	
	人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)
F00 アルツハイマー型認知症	58	22.8	47	18.7	47	20.2	37	18.4	20	16.9
F01 血管性認知症	13	5.1	11	5.1	10	4.3	14	7.0	3	2.5
F02 その他の疾患による認知症	6	2.4	12	2.4	4	1.7	3	1.5	2	1.7
F05 せん妄	2	0.8	2	0.8	2	0.9	6	3.0	4	3.4
F0 (上記以外の疾患)	8	3.1		3.1			6	3.0	5	4.2
F10 アルコール使用による障害	13	5.1	14	5.1	4	1.7	6	3.0	4	3.4
F1 (上記以外の疾患)			3		2	0.9	2	1.0	2	1.7
F20 統合失調症	79	31.1	88	31.1	85	36.5	67	33.3	47	39.8
F2 (上記以外の疾患)			4		8	3.4	1	0.5	4	3.4
F30 躁病エピソード					1	0.4				
F31 双極性感情障害	11	4.3	18	4.3	21	9.0	13	6.5	4	3.4
F32 うつ病エピソード	4	1.6	17	1.6	28	12.0	16	8.0	6	5.1
F33 反復性うつ病性障害			2		3	1.3	2	1.0	4	3.4
F3 (上記以外の疾患)	28	11.0	2	11.0	1	0.4	1	0.5		
F40 恐怖性不安障害										
F41 他の不安障害	2	0.8	7	0.8	4	1.7	8	4.0	3	2.5
F42 強迫性障害					1	0.4				
F43 重度ストレス反応及び適応障害	1	0.4		0.4	1	0.4	1	0.5	1	0.8
F44 解離性(転換性)障害					2	0.9			3	2.5
F45 身体表現性障害			6				2	1.0		
F4 (上記以外の疾患)										
F50 摂食障害	2	0.8	3	0.8			1	0.5	1	0.8
F51 非器質性睡眠障害										
F5 (上記以外の疾患)										
F6 成人のパーソナリティー及び行動の障害	2	0.8	6	0.8	2	0.9	3	1.5	1	0.8
F7 精神遅滞	8	3.1	2	3.1	4	1.7	5	2.5	3	2.5
F84 広汎性発達障害			1				2	1.0		
F8 (上記以外の疾患)										
F90 多動性障害										
F9 (上記以外の疾患)										
G40 てんかん	6	2.4	2	2.4	2	0.9	5	2.5	1	0.8
その他	11	4.3	4	4.3	1	0.4				
合 計	254	100.0	251	95.9	233	100.0	201	100.0	118	100.0

4 新入院患者の年齢階層別人数及び割合の年次推移

年度 年齢階層	2013年度		2014年度		2015年度		2016年度		2017年度	
	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)
～ 19才	2	0.8	2	0.8	3	1.3	0	0.0	3	2.5
20才～29才	26	10.2	13	5.2	12	5.2	16	8.0	8	6.8
30才～39才	22	8.7	19	7.6	17	7.3	18	9.0	6	5.1
40才～49才	39	15.4	35	13.9	28	12.0	27	13.4	13	11.0
50才～59才	28	11.0	36	14.3	32	13.7	21	10.4	18	15.3
60才～69才	41	16.1	52	20.7	52	22.3	36	17.9	22	18.6
70才～	96	37.8	94	37.5	89	38.2	83	41.3	48	40.7
合 計	254	100.0	251	100.0	233	100.0	201	100.0	118	100.0

5 入院患者の在院期間別人数及び割合（３月３１日現在）

	2013年度 (H25. 6. 30現在)	2014年度 (H26. 6. 30現在)	2015年度 (H28. 3. 31現在)	2016年度 (H29. 3. 31現在)	2017年度 (H30. 3. 31現在)
1 ヶ月未満	27	30	16	17	9
(%)	23. 5	27. 3	20. 3	21. 8	15. 5
1 ヶ月～3 ヶ月未満	19	18	15	19	8
(%)	16. 5	16. 4	19. 0	24. 4	13. 8
3 ヶ月～6 ヶ月未満	6	14	16	9	8
(%)	5. 2	12. 7	20. 3	11. 5	13. 8
6 ヶ月～1 年未満	15	12	5	10	8
(%)	13. 0	10. 9	6. 3	12. 8	13. 8
1 年～5 年未満	26	18	18	14	19
(%)	22. 6	16. 4	22. 8	17. 9	32. 8
5 年～1 0 年未満	12	9	4	4	0
(%)	10. 4	8. 2	5. 1	5. 1	0. 0
1 0 年～2 0 年未満	4	3	2	2	3
(%)	3. 5	2. 7	2. 5	2. 6	5. 2
2 0 年以上	6	6	3	3	3
(%)	5. 2	5. 5	3. 8	3. 8	5. 2
合 計	115	110	79	78	58
(%)	100. 0	100. 0	100. 0	100. 0	100. 0

1 年未満	67	74	52	55	33
(%)	58. 3	67. 3	65. 8	70. 5	56. 9
1 年以上	48	36	27	23	25
(%)	41. 7	32. 7	34. 2	29. 5	43. 1

(再掲) 5 年以上	22	18	11	9	9
(%)	19. 1	16. 4	13. 9	11. 5	15. 5

6－1 退院患者の退院先別入院期間別人数及び割合

2013年度

入院期間 区分	1月 未満	1月 ～3月	3月 ～6月	6月 ～1年	1年 ～3年	3年 ～5年	5年 以上	計	構成比 (%)
単身生活								0	0.0
家族と同居	25	73	29	18	5			150	58.6
老人施設等	4	24	11	8	2	2		51	19.9
転院	12	11	5	2	4		4	38	14.8
共同住居		4	3	2	3	1		13	5.1
死亡	1	1		1	1			4	1.6
警察								0	0.0
その他								0	0.0
計	42	113	48	31	15	3	4	256	100.0
(%)	16.4	44.1	18.8	12.1	5.9	1.2	1.6	100.0	

2014年度

入院期間 区分	1月 未満	1月 ～3月	3月 ～6月	6月 ～1年	1年 ～3年	3年 ～5年	5年 以上	計	構成比 (%)
単身生活	5	1						6	2.4
家族と同居	28	56	29	5	4			122	49.8
老人施設等	4	15	2	2	1			24	9.8
転院	17	13	9	7	4		4	54	22.0
共同住居	4	10	10	7	3		2	36	14.7
死亡				1			2	3	1.2
警察								0	0.0
その他								0	0.0
計	58	95	50	22	12	0	8	245	100.0
(%)	23.7	38.8	20.4	9.0	4.9	0.0	3.3	100.0	

2015年度

入院期間 区分	1月 未満	1月 ～3月	3月 ～6月	6月 ～1年	1年 ～3年	3年 ～5年	5年 以上	計	構成比 (%)
単身生活		2	1					3	1.1
家族と同居	23	61	45	12	1			142	54.2
老人施設等	1	13	10	5	2	2		33	12.6
転院	9	6	7	3	4	2	2	33	12.6
共同住居	4	21	8	6	8	2		49	18.7
死亡	1	1						2	0.8
警察								0	0.0
その他								0	0.0
計	38	104	71	26	15	6	2	262	100.0
(%)	14.5	39.7	27.1	9.9	5.7	2.3	0.8	100.0	

2016年度

入院期間 区分	1月 未満	1月 ～3月	3月 ～6月	6月 ～1年	1年 ～3年	3年 ～5年	5年 以上	計	構成比 (%)
単身生活								0	0.0
家族と同居	25	52	16	1	1			95	47.0
老人施設等	2	2	3	3	1			11	5.4
転院	14	12	9	4	7	1	1	48	23.8
共同住居	7	21	6	4	3		1	42	20.8
死亡		3		2	1			6	3.0
警察								0	0.0
その他								0	0.0
計	48	90	34	14	13	1	2	202	100.0
(%)	23.8	44.6	16.8	6.9	6.4	0.5	1.0	100.0	

2017年度

入院期間 区分	1月 未満	1月 ～3月	3月 ～6月	6月 ～1年	1年 ～3年	3年 ～5年	5年 以上	計	構成比 (%)
単身生活	1	0	0	2	0	0	0	3	2.2
家族と同居	13	39	10	7	0	0	0	69	50.0
老人施設等	2	2	1	1	1	0	1	8	5.8
転院	5	4	2	6	2	1	1	21	15.2
共同住居	5	7	10	1	3	1	1	28	20.3
死亡	3	1	1	2	1	0	1	9	6.5
警察	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
計	29	53	24	19	7	2	4	138	100.0
(%)	21.0	38.4	17.4	13.8	5.1	1.4	2.9	100.0	

6-2 退院患者の退院先別人数と構成割合の年次推移

区分	2013年度		2014年度		2015年度		2016年度		2017年度	
	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)
単身生活			6	2.4	3	1.1			3	2.2
家族と同居	150	58.6	122	49.8	142	54.2	95	47.0	69	50.0
老人施設等	51	19.9	24	9.8	33	12.6	11	5.4	8	5.8
転院	38	14.8	54	22.0	33	12.6	48	23.8	21	15.2
共同住居	13	5.1	36	14.7	49	18.7	42	20.8	28	20.3
死亡	4	1.6	3	1.2	2	0.8	6	3.0	9	6.5
警察										
その他										
計	256	100.0	245	100.0	262	100.0	202	100.0	138	100.0

7 入院患者の居住地域別人数及び割合

		2013年度		2014年度		2015年度		2016年度		2017年度	
		患者数	(%)	患者数	(%)	患者数	(%)	患者数	(%)	患者数	(%)
北網圏	網走市	690	46.3	645	44.9	638	47.4	515	47.1	443	48.6
	北見市	101	6.8	165	11.5	118	8.8	65	5.9	50	5.5
	大空町	102	6.8	85	5.9	47	3.5	37	3.4	42	4.6
	美幌町	117	7.8	83	5.8	102	7.6	96	8.8	32	3.5
	津別町	10	0.7	2	0.1	13	1.0	13	1.2	25	2.7
	斜里町	149	10.0	143	9.9	96	7.1	76	6.9	83	9.1
	清里町	87	5.8	79	5.5	79	5.9	63	5.8	50	5.5
	小清水町	41	2.7	40	2.8	67	5.0	25	2.3	21	2.3
	訓子府町	7	0.5	4	0.3	2	0.1			6	0.7
	置戸町										
遠紋圏	紋別市	24	1.6	22	1.5	52	3.9	51	4.7	48	5.3
	佐呂間町	9	0.6	17	1.2	16	1.2	15	1.4	12	1.3
	遠軽町	44	3.0	47	3.3	42	3.1	54	4.9	47	5.2
	湧別町	21	1.4	34	2.4	27	2.0	34	3.1	15	1.6
	滝上町	13	0.9	15	1.0	15	1.1	12	1.1	12	1.3
	興部町	7	0.5	1	0.1	3	0.2	5	0.5	13	1.4
	西興部町	3	0.2								
	雄武町	14	0.9	10	0.7						
その他	他道内	45	3.0	46	3.2	23	1.7	33	3.0	9	1.0
	道外	7	0.5			7	0.5			4	0.4
	その他										
合 計		1,491	100.0	1,438	100.0	1,347	100.0	1,094	100.0	912	100.0

8 入院患者の経路別人数及び割合

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
本人自らの希望	72	60	68	63	44
(%)	22.8	21.3	20.2	19.7	21.4
家族・同僚等が同伴	114	116	110	116	54
(%)	36.1	41.1	32.7	36.3	26.2
保健所・福祉事務所の紹介	1	0	1	0	3
(%)	0.3	0.0	0.3	0.0	1.5
他の精神科病院等の紹介	3	3	2	2	0
(%)	0.9	1.1	0.6	0.6	0.0
精神科以外の病院等の紹介	61	31	51	59	41
(%)	19.3	11.0	15.2	18.4	19.9
警察・消防署等の紹介	26	12	20	21	14
(%)	8.2	4.3	6.0	6.6	6.8
その他	39	60	84	59	50
(%)	12.3	21.3	25.0	18.4	24.3
計	316	282	336	320	206
(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

※ 経路別人数は複数計上あり

2015年度

入院経路	本人	家族		施設職員		保健所 警察等	計
		施設 職員	保健所 警察等	施設 職員	保健所 警察等		
自宅	68	110	8	3	7	6	202
一般病院	15	27	4	1	3	1	51
精神科病院		1	1				2
施設	10	6	3	2	22	1	44
グループホーム	7	5	1		8	1	22
その他（旅行中・警察等）	5	2	1	1	1	5	15
計	105	151	18	7	41	12	336

2016年度

入院経路	本人	家族		施設職員		保健所 警察等	計
		施設 職員	保健所 警察等	施設 職員	保健所 警察等		
自宅	63	89	0	5	3	7	167
一般病院	22	31	2	0	4	0	59
精神科病院	0	2	0	0	0	0	2
施設	13	12	6	0	17	0	48
グループホーム	5	4	1	0	8	1	19
その他（旅行中・警察等）	8	7	0	2	2	5	25
計	111	145	9	7	34	13	320

2017年度

入院経路	本人	家族		施設職員		保健所 警察等	計
		施設 職員	保健所 警察等	施設 職員	保健所 警察等		
自宅	44	54	1	2	1	10	112
一般病院	14	19	3	0	4	1	41
精神科病院	0	0	0	0	0	0	0
施設	9	6	5	0	6	1	27
グループホーム	6	4	3	0	5	0	18
その他（旅行中・警察等）	3	2	0	1	0	2	8
計	76	85	12	3	16	14	206

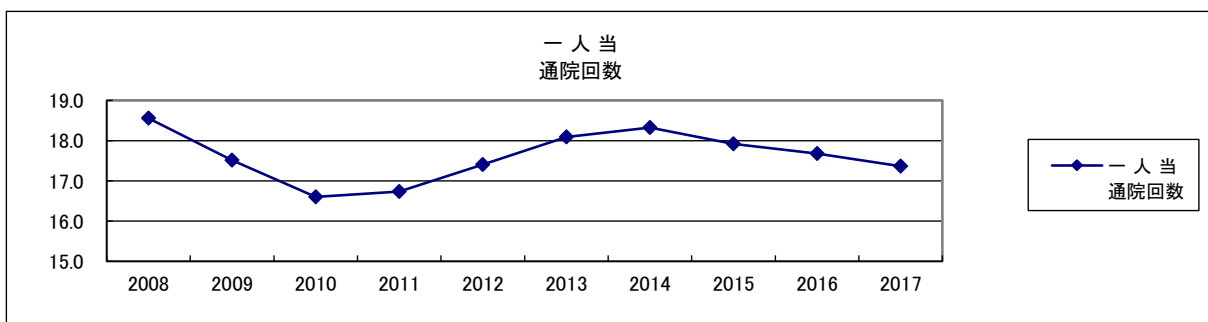
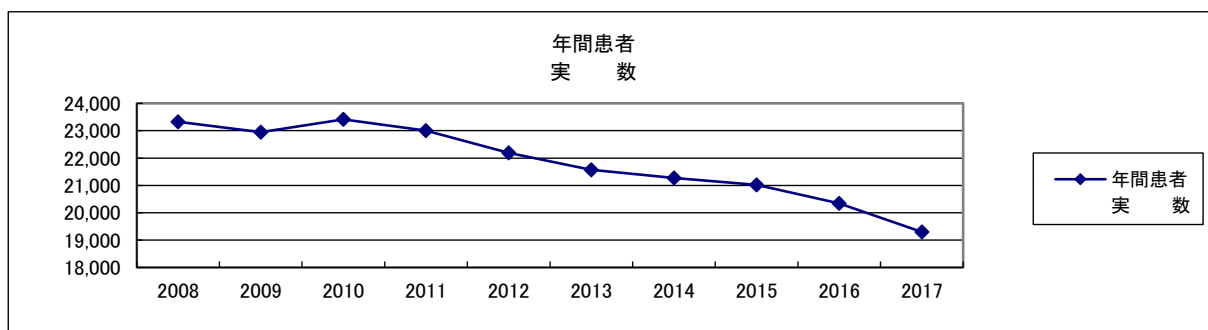
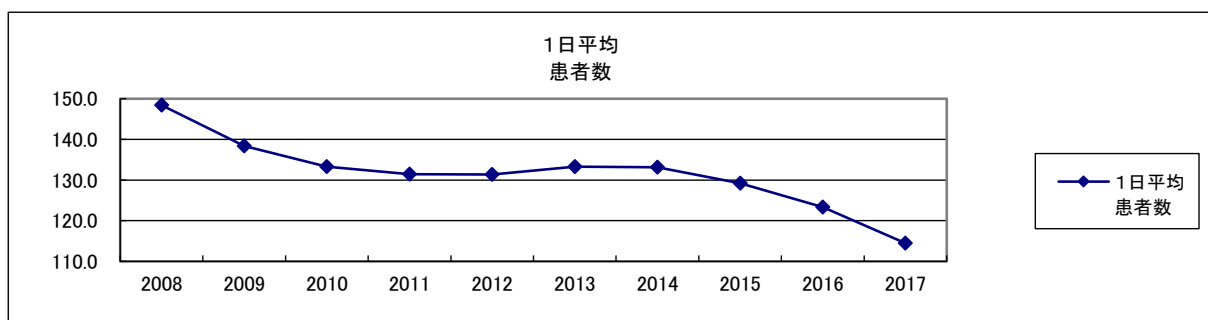
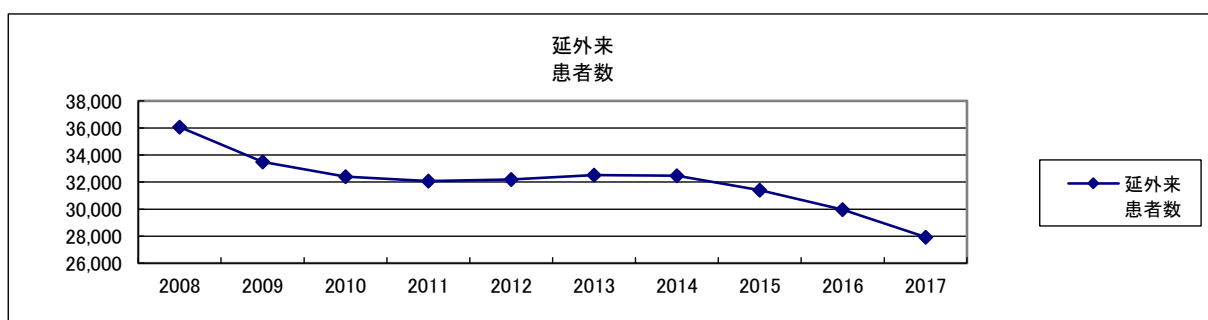
9-1 外来患者数の推移

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
延べ外来患者数	32,515	32,480	31,392	29,972	27,391
年間実患者数	21,569	21,267	21,024	20,347	19,298
新規外来患者数	670	870	819	685	610
1日平均患者数	133.3	133.1	129.2	123.3	114.5
休日診療患者数	20	25	12	5	4
時間外診療患者数	12	5	6	4	6
深夜診療患者数	9	7	6	3	2

9-2 外来患者数の推移（2008年度～2017年度）

（単位：人）

区分	延外来 患者数	新外来 患者数	1日平均 患者数	年間患者 実数	一人当 通院回数
2008	36,065	955	148.4	23,324	18.6
2009	33,488	834	138.4	22,950	17.5
2010	32,390	843	133.3	23,413	16.6
2011	32,073	758	131.4	23,001	16.7
2012	32,188	730	131.4	22,189	17.4
2013	32,515	670	133.3	21,569	18.1
2014	32,480	870	133.1	21,267	18.3
2015	31,392	819	129.2	21,024	17.9
2016	29,972	685	123.3	20,347	17.7
2017	27,931	610	114.5	19,298	17.4



10 初診外来患者の病名別分類

病名 (ICD-10)	2013年度		2014年度		2015年度		2016年度		2017年度	
	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)
F 0	118	17.6	166	19.1	141	17.2	121	17.7	120	19.7
F 1	17	2.5	10	1.1	11	1.3	6	0.9	9	1.5
F 2	47	7.0	39	4.5	46	5.6	24	3.5	19	3.1
F 3	140	20.9	172	19.8	209	25.5	156	22.8	82	13.4
F 4	256	38.2	251	28.9	206	25.2	207	30.2	157	25.7
F 5	20	3.0	74	8.5	55	6.7	28	4.1	10	1.6
F 6	1	0.1	1	0.1	4	0.5			4	0.7
F 7	31	4.6	49	5.6	49	6.0	45	6.6	51	8.4
F 8	7	1.0	7	0.8	9	1.1	21	3.1	24	3.9
F 9	1	0.1	6	0.7	5	0.6	5	0.7	5	0.8
G	5	0.7	6	0.7	2	0.2	4	0.6	54	8.9
その他	27	4.0	89	10.2	82	10.0	68	9.9	75	12.3
合 計	670	100.0	870	100.0	819	100.0	685	100.0	610	100.0

F0 : 症状性を含む器質性精神障害

F1 : 精神作用物質使用による精神及び行動の障害

F2 : 統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害

F3 : 気分（感情）障害

F4 : 神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害

F5 : 生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群

F6 : 成人の人格及び行動の障害

F7 : 知的障害（精神遅滞）

F8 : 心理的発達の障害

F9 : 小児（児童）期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害

G : 神経系の疾患

その他 : 精神によらない内科的、外科的疾患

1 1 外来患者の居住地域別人数及び割合

		2013年度		2014年度		2015年度		2016年度		2017年度	
		患者数	(%)	患者数	(%)	患者数	(%)	患者数	(%)	患者数	(%)
北網圏	網走市	10,894	50.5	10,978	51.6	10,943	52.1	10,505	51.6	10,302	53.4
	北見市	1,432	6.6	1,285	6.0	1,228	5.8	1,336	6.6	1,346	7.0
	大空町	1,390	6.4	1,326	6.2	1,326	6.3	1,237	6.1	1,204	6.2
	美幌町	1,574	7.3	1,425	6.7	1,358	6.5	1,326	6.5	1,256	6.5
	津別町	292	1.4	304	1.4	289	1.4	278	1.4	226	1.2
	斜里町	3,194	14.8	3,131	14.7	3,218	15.3	3,055	15.0	2,827	14.6
	清里町	869	4.0	832	3.9	794	3.8	715	3.5	697	3.6
	小清水町	961	4.5	987	4.6	941	4.5	906	4.5	801	4.2
	訓子府町	44	0.2	55	0.3	56	0.3	56	0.3	43	0.2
	置戸町	10	0.0	0	0.0		0.0	7	0.0	12	0.1
遠紋圏	紋別市	111	0.5	115	0.5	97	0.5	102	0.5	71	0.4
	佐呂間町	180	0.8	143	0.7	104	0.5	109	0.5	85	0.4
	遠軽町	54	0.3	73	0.3	93	0.4	95	0.5	74	0.4
	湧別町	119	0.6	110	0.5	97	0.5	111	0.5	77	0.4
	滝上町	22	0.1	23	0.1	27	0.1	35	0.2	28	0.1
	興部町	44	0.2	45	0.2	52	0.2	41	0.2	32	0.2
	西興部町		0.0		0.0		0.0		0.0	0	0.0
	雄武町	3	0.0	12	0.1	8	0.0		0.0	0	0.0
その他	他道内	304	1.4	298	1.4	250	1.2	263	1.3	194	1.0
	道外	22	0.1	27	0.1	20	0.1	7	0.0	23	0.1
	その他	50	0.2	98	0.5	123	0.6	163	0.8	0	0.0
合 計		21,569	100.0	21,267	100.0	21,024	100.0	20,347	100.0	19,298	100.0

1 2 診療時間以外の外来診療件数内訳

		2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
初診	時間外	12	5	6	1	3
	休日	5	13	3	2	2
	深夜	6	2	1	2	
	計	23	20	10	5	5
再診	再診	時間外			3	3
		休日	11	12	2	2
		深夜	3	3	1	2
		計	14	15	6	7
	電話再診	時間外				
		休日	4	2	1	
		深夜		1		
		計	4	3	1	
	計	時間外			3	3
		休日	15	12	3	2
		深夜	3	5	1	2
		計	18	17	7	7
合計	時間外	12	5	6	4	6
	休日	20	25	12	5	4
	深夜	9	7	6	3	2
	計	41	37	24	12	12

1 3 - 1 精神科救急医療システム実績

年 度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
(システム実施日数)	(183)	(183)	(176)	(183)	(179)
システム取扱件数	15	13	22	37	31
電 話 相 談			9	25	23
外 来	5	7	5	5	3
入 院	10	6	8	7	5

1 3 - 2 救急車による患者搬入件数の年次推移

年 度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
総 数	37	47	36	25	16
時 間 外	21	29	24	9	9

第4 経営概況

1 決算状況

(単位：千円、%)

款 項 目	2015年度	2016年度	2017年度	15年度対比	16年度対比
	A	B	C	C/A	C/B
病 院 事 業 収 益	807,774	932,630	771,432	95.5	82.7
医 業 収 益	775,549	678,951	608,579	78.4	89.6
う ち 入 院 収 益	526,321	427,857	369,377	70.1	86.3
う ち 外 来 収 益	237,701	241,259	228,918	96.3	94.8
うちその他医業収益	11,527	9,835	10,284	89.2	104.5
医 業 外 収 益	29,406	252,509	162,559	552.8	64.3
特 別 利 益	2,819	1,170	294	10.4	25.1
病 院 事 業 費 用	1,306,667	1,655,335	1,493,672	114.3	90.2
医 業 費 用	1,275,784	1,601,189	1,437,548	112.6	89.7
給 与 費	873,025	855,332	787,226	90.1	92.0
う ち 退 職 給 与 金	140,894	142,348	69,440	49.2	48.7
材 料 費	96,088	92,101	77,562	80.7	84.2
う ち 医 薬 材 料 費	95,364	91,488	76,029	79.7	83.1
経 費	280,364	319,580	341,394	121.7	106.8
う ち 旅 費	2,266	1,952	3,678	162.3	188.4
う ち 需 用 費	41,722	45,408	46,116	110.5	101.5
う ち 修 繕 費	11,671	3,732	5,468	46.8	146.5
う ち 委 託 料	185,714	214,499	255,359	137.5	119.0
うち使用料賃借料	18,709	18,891	20,342	108.7	107.6
う ち 役 務 費	6,413	31,356	6,739	105.0	21.4
減 価 償 却 費	22,365	229,737	227,916	1,019.0	99.2
資 産 減 耗 費	708	101,401	263	37.1	0.2
研 究 研 修 費	3,234	3,038	3,187	98.5	104.9
医 業 外 費 用	28,205	53,168	55,574	197.0	104.5
特 別 損 失	2,678	978	550	20.5	56.2
損 益	-498,893	-722,705	-722,240	144.7	99.9
外来収益/医業収益(%)	30.6	35.5	37.6	122.8	105.9
医業費用/医業収益(%)	164.5	235.8	236.2	143.5	100.1
給与費 / 医業収益(%)	112.5	125.9	129.3	114.9	102.7
医業収益 - 医業費用	-500,235	-922,238	-828,969	165.7	89.8

2 経営分析調

区 分 項 目	算 出 基 礎	2015年度	2016年度	2017年度
病 床 利 用 率 (%)	$\frac{\text{年延入院患者数}}{\text{年延許可病床数}} \times 100$	64.8	67.5	63.0
入 院 外 来 患 者 比 率 (%)	$\frac{\text{年延外来患者数}}{\text{年延入院患者数}} \times 100$	91.6	106.7	115.7
患 者 1 人 1 日 当 た り 入院収益 (円)	$\frac{\text{入院収益}}{\text{年延入院患者数}}$	15,352	15,233	15,306
患 者 1 人 1 日 当 た り 外来収益 (円)	$\frac{\text{外来収益}}{\text{年延外来患者数}}$	7,572	8,049	8,196
患 者 1 人 1 日 当 た り 収 益 (円)	$\frac{\text{入院・外来収益}}{\text{年延入院外来患者数}}$	11,633	11,525	11,492
投 薬 使 用 効 率 (%)	$\frac{\text{投薬収入}}{\text{投薬薬品費}} \times 100$	127.8	127.7	131.0
注 射 薬 使 用 効 率 (%)	$\frac{\text{注射収入}}{\text{注射薬品費}} \times 100$	114.7	115.6	116.8
職 員 給 与 費 率 (%)	$\frac{\text{職員給与費}}{\text{医業収益}} \times 100$	112.6	126.0	129.4
材 料 費 率 (%)	$\frac{\text{材料費}}{\text{医業収益}} \times 100$	12.4	13.6	12.7
経 常 収 支 比 率 (%)	$\frac{\text{経常収益}}{\text{経常費用}} \times 100$	61.8	56.3	51.6
医 業 収 支 比 率 (%)	$\frac{\text{医業収益}}{\text{医業費用}} \times 100$	60.8	42.4	42.3

3 診療行為別件数

年 度 区 分		2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
初 診		727	892	879	748	644
投 薬	入 院	166,509	173,073	176,510	126,012	116,386
	外 来	4,240	3,647	4,448	4,731	4,226
	合 計	170,749	176,720	180,958	130,743	120,612
画 像 診 断	入 院	9,921	11,267	12,307	18,228	15,098
	外 来	5,265	8,759	7,538	14,346	20,135
	合 計	15,186	20,026	19,845	32,574	35,233
検 査	入 院	52,510	55,770	53,374	45,090	34,484
	外 来	45,657	48,773	41,125	41,124	41,206
	合 計	98,167	104,543	94,499	86,214	75,690
特別食（単位：食）		21,640	16,997	19,681	15,561	17,507
訪 問 看 護		2,172	2,151	2,187	2,125	2,472
往 診		0	0	0	0	0
作 業 療 法		4,878	4,412	4,996	4,387	4,492
薬 剤 管 理 指 導		1	0	0	243	321
デ イ ケ ア		8,709	9,045	8,218	7,608	6,996

4 病床１００床当たり職員数

年 度 職種等	2013 年 度	2014 年 度	2015 年 度	2016 年 度	2017 年 度
病 床 数	146	146	146	105	105
医 師	3.4	3.4	3.4	4.8	4.8
看 護 部 門	45.9	43.8	40.4	56.2	49.5
薬 剤 部 門	1.2	1.2	1.2	2.6	2.6
栄 養 部 門	0.7	0.7	0.7	1.0	1.0
画 像 診 断 部 門	1.4	1.4	1.4	1.9	1.9
臨 床 検 査 部 門	0.7	1.4	1.4	1.9	1.9
地 域 連 携 部 門	—	—	—	—	4.8
作 業 療 法 部 門	1.2	1.2	0.7	1.0	—
デ イ ケ ア 部 門	3.4	3.4	2.7	3.8	—
リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 部 門	—	—	—	—	4.8
心 理 判 定 部 門	—	—	—	—	1.0
認 知 症 疾 患 医 療 セ ン タ ー 部 門	—	1.4	2.1	2.9	1.9
指 導 部 門	—	—	—	—	—
そ の 他	—	—	—	—	—
事 務 部 門	6.2	6.2	5.5	7.6	8.6
合 計	64.1	64.1	59.5	83.7	82.8

1 職員数には、委嘱医、非常勤職員、臨時職員を含み、委嘱医、非常勤職員は常勤換算し算出

2 看護部門には、看護助手を含む

3 職員数＝年度末職員数／年度末病床数×１００

4 平成２８年６月２０日から病床数１０５床に変更

5 医薬材料使用効率調

(単位：円、%)

年 度 区 分		2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
投 薬 注 射 薬 品 計	費用 a	35,360,078	33,209,451	32,967,106	25,628,498	21,832,670
	収益 b	44,847,777	42,447,149	42,139,331	32,736,513	28,604,083
	率 b/a	126.8	127.8	127.8	127.7	131.0
そ の 他 医 薬 材 料 合 計	費用 a	29,852,706	31,621,292	43,051,789	47,243,571	38,565,128
	収益 b	34,034,498	36,625,999	49,398,931	54,636,497	45,044,425
	率 b/a	114.0	115.8	114.7	115.6	116.8
計	費用 a	65,212,784	64,830,743	76,018,895	72,872,069	60,397,798
	収益 b	78,882,275	79,073,148	91,538,262	87,373,010	73,648,508
	率 b/a	121.0	122.0	120.4	119.9	121.9
計	費用 a	13,305,532	13,175,840	12,256,154	12,182,034	9,979,144
	収益 b	215,949,545	219,094,755	210,733,725	195,858,307	190,032,484
	率 b/a	1,623.0	1,662.9	1,719.4	1,607.8	1,904.3
計	費用 a	78,518,316	78,006,583	88,275,049	85,054,103	70,376,942
	収益 b	294,831,820	298,167,903	302,271,987	283,231,317	263,680,992
	率 b/a	375.5	382.2	342.4	333.0	374.7

※ 「その他医薬材料」とは、検査、X線、処置、手術、精神科専門療法に係るものの合計である。

6 給食収益に対する材料費調

(単位：円、%)

年 度 区 分		2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
(うち用具費分)		(153,593)	(445,875)	(203,835)	(62,949)	(64,118)
費 用 A		31,448,254	31,269,915	29,149,069	24,042,206	21,875,413
収 益 B		74,476,000	70,167,562	65,556,136	53,391,266	45,559,912
率 A/B		42.2	44.6	44.5	45.0	48.0
(うち用具費分)		(4)	(12)	(6)	(2)	(3)
1人1日当たり費用		811	844	850	856	906

第5 地域支援活動

1 診療支援

J A北海道厚生連網走厚生病院には精神科の専門医が配置されていないが、入院患者の中には主疾病とは別に精神的な治療を必要とする患者がおり、臨時的な専門医による診療が必要な状況から当院が支援を行っている。

網走市内で精神科専門医を要しているのは当院のみであり、公的医療機関として地域の医療機関への補完的応援を行い地域の医療確保に努める必要があることから、当該病院に対し診療支援を行っている。

2 地域の保健、予防活動

地域の保健、予防活動の普及、促進等のため、関係機関への協力、支援を行っている。

機 関 名	内 容
北海道森林管理局	心の健康づくり相談員
北海道警察本部	鉄砲刀剣類所持等取締法に基づく指定医
北海道保健福祉部	精神科病院実地審査委員
北海道教育委員会	心の健康相談員
北海道オホーツク総合振興局	精神保健医
	生活保護法による委嘱医
	精神保健相談事業
	思春期相談事業
北海道網走高等看護学院	講師
北海道網走養護学校	学校医
道立心身障害者総合相談所	一般巡回相談相談医
網走市	福祉事務所嘱託医(生活保護・特別障害者手当・子供発達支援センター業務)
	老人ホーム入所判定会議委員
	教育支援委員会委員
網走市外3町障害支援区分認定審査会	委員
網走市外3町介護認定審査会	委員
美幌地域3町障害程度区分認定等審査会	委員
網走刑務所	非常勤医師
J A北海道厚生連網走厚生病院	委嘱医師
網走地方精神保健協会	会長ほか役員、事務局員

3 講演

地方公共団体や各種団体からの依頼を受け、地域の保健活動の普及、促進等のため、講演を行っている。

年 月 日	講演者	演 題	主 催
H29. 5. 18	草野章子	正しく知ろう認知症	斜里町
H29. 11. 13	草野章子	認知症ケア研修	北見病院

4 自助グループへの支援

A・A（アルコールの自助グループ）活動の支援

アルコール依存症の治療は、薬物や精神療法には限界があり、仲間同士の体験や知恵から、断酒を自らが選び取る自助グループの存在は欠くことができないものであり、病院の近くに参加できるグループの存在は大きい。

現在、市内では、網走グループが、毎週月曜日の19時から20時まで、当院相談室を使用して、ミーティング活動を行っている。

グループへの支援は、外来看護師が窓口を担当し、ミーティング開催に向けて、入院、通院中の関係患者に通知し、参加を促している。

また、保健所主催のA A家族学習会への支援を行っている。

5 グループホームと地域活動支援センターの支援

市内にある共同住居（グループホーム）と地域共同作業所に対し、運営委員会やミーティングへの参加、訪問看護、相談及び指導員との連絡・調整等の支援を行っている。

6 網走保健所、市町村等との連携

(1) サポート会議

精神障がい者が円滑な地域生活ができるよう、関係者が情報交換を行い、連携の強化を図るため、月1回、地域の保健福祉担当者とケース検討を行っている。

年度別のケース検討件数は、次表のとおりである。

年度別ケース検討事例数

(単位：件)

月 年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2013年度	14	16	18	18	19	18	16	20	16	12	21	22	210
2014年度	15	17	12	18	20	14	23	15	15	6	12	17	184
2015年度	17	11	20	18	22	16	16	14	15	10	14	7	180
2016年度	12	12	13	14	13	10	10	12	10	8	11	18	144
2017年度	11	11	15	9	9	9	9	5	13	10	10	15	126

(2) ヘルパー会議

市役所保健福祉課・保健センター職員、ホームヘルパーと精神障がい者や認知症老人の在宅支援などのケース検討等を隔月に1回、計146件実施している。
また、必要に応じ訪問看護ステーションなどと連携している。

(3) 心の健康相談

地域、職場などの各ライフステージにわたる精神的不健康、不適応状態にある者の相談援助を行い、健康状態の回復を目指したり、精神疾患の早期発見、早期治療、更には、精神障がいを有する者やその家族が抱えている問題に相談援助し、家族の問題の軽減を図る目的で網走保健所が実施している事業であり、月1回、当院医師が協力している。

(4) 移動精神保健相談

町内に精神科の医療機関がない住民に対し、身近な地域で容易に相談が受けられる機会を提供することを目的に保健所が実施している事業であり、当院医師が協力している。

(5) 思春期保健相談事業

中高校生等思春期における子どもとその親を対象に医師、保健師により思春期に関する相談を目的に保健所が実施している事業であり、当院医師が協力している。

(6) 通院患者の主治医相談

保健所保健師が、訪問指導などのために主治医との相談を求めてきた場合、随時、応じている。

対応困難なケースについては、事例検討会などを開催し、関係者を含めた主治医との連携を図っている。

その他退院予定者が対象となる場合もある。

(7) 福祉サービスとの連携

生活保護受給者等について、市及び総合振興局の生活保護担当者による主治医相談が、随時、行われている。

当院の場合、疾病による生活障害のため、生活保護を受給している障がい者が比較的多く、病状が悪化したことにより、緊急に相談を受けることもある。

(8) 介護保険制度への協力

市町村からの依頼により、主治医意見書を記載している。

介護保険主治医意見書取扱件数

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
件数	256	292	297	306	213

(9) 障害者自立支援制度への協力

市町村からの依頼により、主治医意見書を記載している。

障害者自立支援主治医意見書取扱件数

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
件数	69	102	92	76	88

第6 研修、教育・実習

1 院内研修開催状況

開催年月日	研修会等の名称・内容	参加数	備考(講師等)
2017. 4. 3	新規採用職員研修	4名	事務長ほか
2017. 6. 14	医療安全研修(事故集計結果等)	28名	医療安全管理委員会
2017. 6. 2	防災教育	15名	防火管理者(総務課長)
2017. 9. 8 13 19	医療安全K Y T研修	68名	リスクマネジメント委員会
2017. 9. 20	救急研修(一次救命処置)	22名	厚生病院今医師ほか
2017. 10. 2	感染対策研修会(インフルエンザ)	47名	院内感染対策チーム
2017. 10. 27	褥瘡対策研修	28名	褥瘡対策チーム
2017. 11. 10	防災教育	15名	防火管理者(総務課長)
2017. 11. 22	感染対策研修会	30名	院内感染対策チーム
2017. 12. 13 20	医療安全研修(C V P P P)	80名	医療安全管理委員会 1月25(1月・2月も実施) 2月5・8・26
2018. 2. 16	行動制限に関する研修	61名	行動制限最小化委員会 3月16日も実施
2018. 2. 20	接遇研修	29名	患者サービス向上委員会
2018. 2. 22	特定事業主行動計画に関する研修	84名	総務課長
2018. 3. 24	栄養管理研修	12名	栄養サポートチーム

2 院外研修会等参加状況

年 月 日	研修会等の名称	場 所	参 加 者
2017. 5. 14～ 5. 16	新規採用職員研修	札幌市	塩谷千愛
6. 14～ 6. 16	日本老年精神学会	名古屋市	中村一朗
7. 10～ 7. 11	リスクマネジメント基礎研修	札幌市	竹内さつき
7. 13～ 7. 14	看護倫理研修	札幌市	木村裕子
7. 21～ 7. 23	境界性パーソナリティ障害研修会	帯広市	山田実穂
7. 27～ 7. 28	摂食・嚥下障害ケアの基本	札幌市	橘井陽子
8. 23～ 8. 25	災害看護の基本的知識	札幌市	折笠郁子
8. 24～ 8. 25	精神障害者地域支援事業エリア研修	旭川市	徳差さなえ
8. 25～ 8. 26	精神科身体合併症看護研修会	滝川市	河野宏子
9. 1～ 9. 2	精神科アセスメントストレングスモデル研修会	札幌市	草野章子
10. 2～10. 4	道立病院看護職員リーダーシップ研修会	札幌市	高橋さとみ外1名
10. 11～10. 13	日本看護学会学術集会	札幌市	目黒嘉代子
10. 16～10. 21	C V P P P院内トレーナー養成研修	音更町	森本早百合
10. 20～10. 22	全道栄養士研修大会	札幌市	石川千寿子
10. 24～12. 9	認定看護管理者セカンドレベル教育	札幌市	本田修子
10. 25～10. 27	看護管理研修会	札幌市	西森幸子
11. 17～11. 19	電気けいれん療法講習会	富山市	渡邊一由
11. 18～11. 21	eラーニング医療安全管理者養成研修会	札幌市	山崎優子
11. 29～12. 1	道立病院看護師長研修	札幌市	濱名香代子
11. 24～11. 25	精神科領域研修会	札幌市	山田亜人
2018 1. 27～ 1. 28	認知症サポート医養成研修	東京都	中村一朗
2. 16～ 2. 18	E C T(電気けいれん療法)講習会	東京都	幡 賢
3. 15～ 3. 18	日本不安症学会学術大会	東京都	藤井泰
3. 28～ 3. 29	社会保険診療報酬改定説明会	札幌市	南部秀外1名

3 教育、実習の受入

(1) 教 育

学 校 名	講 義 内 容	職 種	氏 名
道立網走高等看護学院	精神看護学援助論Ⅰ	医 師	中 村 一 朗
	精神看護学概論	主任看護師	森 本 早百合
	精神看護学援助論Ⅱ	主任看護師	草 野 章 子
		主任看護師	折 笠 郁 子
	災害看護と国際協力	看 護 師	桜 井 尚 子

(2) 実 習

職 種	学 校 名 等	実 習 期 間	人 員
看 護	道立網走高等看護学院	2017. 6. 29～ 9. 21 2017. 10. 20～11. 1 2017. 11. 27～11. 30 2017. 12. 1～12. 14	延210
看 護	道立紋別高等看護学院	2017. 5. 15～ 5. 31 2017. 6. 1～ 6. 16 2017. 7. 24～ 7. 28	延110
看 護	日本赤十字北海道看護大学	2017. 5. 8～ 5. 18 2017. 6. 5～ 6. 15 2017. 7. 18～ 7. 27	延 46
看 護	学校法人 西野学園	2017. 11. 6～11. 21 2017. 11. 8～11. 24	延 30

(3) インターンシップ

職 種	学 校 名 等	実施期間	人数
看 護	網走桂陽高等学校 第2学年	2017. 9. 13～9. 14	2人

(4) ふれあい看護体験

職 種	学 校 名 等	実施期間	人数
看 護	網走南ヶ丘高等学校 第3学年	2017. 5. 17	9人

第7 医療事故等の状況

1 医療事故等の公表基準

道では、近年の公立病院における医療事故に関する情報公開が急速に進展している状況を踏まえ、道立病院においても、病院運営の透明性を高め、さらに医療の安全管理体制の向上を図ることが必要との判断から、医療事故の公表に関する取扱いを定め、2006（平成18）年度発生の医療事故から適用することとした。

「道立病院における医療事故等の公表基準」の概要は、次のとおりである。

道立病院における医療事故等公表基準(概要)

(1) 目的

道立病院で発生した医療事故等を公表することにより、病院運営の透明性を高め、道民の医療に対する信頼を深めるとともに、医療における安全管理体制の向上を図ることを目的として、医療事故等の公表を行う。

(2) 医療事故等のレベル基準

レベ ル		障害の 継続性	障害の 程 度	内 容
イン シ デ ン ト	レベル0	－	な し	事故が起こりそうな環境に前もって気づいた事例、 実施される前に気づいた事例
	レベル1	－	な し	患者への実害がなかった事例 何らかの影響を与えた可能性はあったが、処置や治 療を要しなかった事例
医 療 事 故	レベル2a	一過性	軽 度	確認のための検査の必要が生じた事例 簡単な処置や治療を要した事例(湿布、鎮痛剤の投 与など)
	レベル2b	一過性	中等度	処置や治療を要した事例（皮膚の縫合など）
	レベル3	一過性	高 度	濃厚な処置や治療を要した事例(人工呼吸器の装着、 入院日数の延長、外来患者の入院など)
	レベル4	永続的	－	永続的な障害や後遺症が残った事例
	レベル5	死 亡	－	死亡(原疾患の自然経過によるものを除く)

(3) 公表基準

各レベルに対応するレベル基準は、次のとおりである。

区 分	レベル	過誤あり	過誤なし
インシ	レベル0	一括公表（個々の事例ごとに公表しない） ※1	
デント	レベル1		
	レベル2a		
医 療 事 故	レベル2b	概 要 公 表 （事例ごとに概要を公表する 医療機関名の公表はしない）	
	レベル3		
	レベル4	原則個別公表 ※2	
	レベル5		

※1 過誤なしについては、一括公表とするが、社会的意義が大きいと考えられるものについては、医療安全対策の観点から概要を公表する。

※2 個別公表については、患者及び家族の同意を得たうえで公表する。
なお、自殺については、患者家族に対する配慮から個別公表は行わない。

(4) 公表の方法

道立病院室のホームページで、次により公表する。

公表に際しては、北海道個人情報保護条例に基づき、十分配慮して行う。

ア 個別公表(随時)

事故の概要、原因及び今後の対策を掲載

なお、個別公表に当たっては、患者さん及びご家族に対し、事前に十分説明を行い、同意を得ることを原則とする。

イ 概要公表及び一括公表(年2回(11月、5月))

概要公表：事故の概要、原因及び今後の対策を掲載

一括公表：件数を掲載

2 医療事故等の発生状況

2013～2017年度の医療事故等の発生件数等は、次のとおりとなっている。

(単位：件)

レベル/年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
レベル0	244	173	56	27	81
レベル1	386	376	251	148	123
レベル2a	29	74	39	17	26
レベル2b	5	4	10	1	4
レベル3	1	5	1	1	0
レベル4	0	0	0	0	0
レベル5	2	1	1	0	0

第8 ご意見の概要

2017年度

分 類	主 な 内 容	対 応 内 容 な ど
苦 情 (8 件)	・職員への不満 ・会計時間が長い ・診療の待ち時間が長い	・関係部署にご意見内容を伝えた。
要 望 (1 4 件)	・薬の受取について ・職員の対応について ・院内生活に関すること ・デイケア活動に関すること ・風呂場のカーテンの設置について ・食事の要望について	・回答文書を掲示した。 ・関係部署にご意見内容を伝えた。
その他 (2 1 件)	・診察時間と薬剤処方について ・職員への感謝 ・職員への不満 ・食事に関すること ・病棟での出来事 ・自己又は家族に関すること ・落書き ・判読不能のもの など	・回答文書を掲示した。 ・関係部署にご意見内容を伝えた。
合計 4 3 件		

第9 資料(網走の精神保健・医療)

1 オホーツク総合振興局管内の人口と面積

人口：285,525人（うち網走市36,322人）（住民基本台帳30.1.1）

面積：10,691km²（国土地理院29.10.1）

2 精神科医療機関の状況（精神科を標ぼうしているオホーツク総合振興局管内の病院・診療所）

	名 称	所在地	許 可 病 床 数					医療機能		
			総数	一般	療養	精神	感染	措置	応急	精神科 デイケア等
病 院	美幌療育病院	美幌町	150	60	30	60				
	北見赤十字病院	北見市	532	490		40	2	○		○
	（医）玉越病院	北見市	110			110				○
	小林病院	北見市	300	256	44					
	（医）端野病院	北見市	140			140				○
	（社医）道東脳神経外科 病院	北見市	60	60						
	北海道立向陽ヶ丘病院	網走市	105			105		○	○	○
	（社医）網走脳神経外科、 リハビリテーション病院	網走市	64	64						
	遠軽厚生病院	遠軽町	337	285	50					
	（医）遠軽学田病院	遠軽町	135			135				
	広域紋別病院	紋別市	150	148			2			
	診療 所	清里クリニック	清里町	19	19					
	あしの医院	北見市	-							
	（社医）桂ヶ丘クリニック	網走市	-							

※1 道医務薬務課ホームページ「道内医療機関の名簿について」より（平成30年10月1日現在）

3 精神保健福祉社会資源

(1) 精神保健協会

名 称	所 在 地	電 話
網走地方精神保健協会	〒093-8585 網走市北7条西3丁目 網走保健所内	0152-41-0698

(2) 地域活動支援センター（地域共同作業所）

地域活動支援センター ふれ愛	〒093-0035 網走市駒場南1丁目4番1号 網走市ふれあい活動センター内	0152-45-4688
地域活動支援センター ニポグリラ	〒093-0035 網走市駒場南1丁目4番1号 網走市ふれあい活動センター内	0152-44-5992
地域活動支援センター 海の貝	〒093-0016 網走市南6条西2丁目 網走市民会館内	0152-61-4355
地域活動支援センター 梅トピア	〒093-0016 網走市呼人722-1	0152-48-3037
地域活動支援センター NPO法人 ひどり窓共同作業所	〒099-4116 斜里町文光町26番地9	0152-26-8668

(3) 精神障がい者地域生活支援センター（北網圏域）

サポートネット北見	〒090-0084 北見市北9条東1丁目14番地	0157-31-3399
-----------	--------------------------	--------------

(4) 計画相談支援事業所

特定相談支援事業者 きずな	〒093-0045 網走市大曲25番地1	0152-45-0050
相談支援センター 「りらいふ」	〒093-0014 網走市南4条西2丁目1 本間ビル1階	0152-44-7681
特定非営利活動法人 オホーツクスポーツクラブ	〒093-0042 網走市潮見185-19	0152-44-4880
網走市こども発達支援 センター ふわり	〒093-0061 網走市北11条東1丁目10-1	0152-44-1884
相談室 べる	〒093-0042 網走市潮見270番地	080-2871-3255
相談支援事業所 ちあふる	〒099-3213 大空町東藻琴340番地1	0152-67-7152
相談支援事業所 ゆい	〒099-4117 斜里町青葉町41	0152-23-6556

(5) 共同生活援助事業所（グループホーム）

※他障害も対象

共同生活住居みずなら※	〒099-4116 斜里町文光町26-12	0152-23-3783
はまなす寮※	〒093-0045 網走市大曲25番地1	0152-67-5081
アスター※	〒099-2421 網走市字呼人393-2	0152-48-3553
サルビア※	〒093-0003 網走市南3条東2丁目	0152-44-7328
ハッピー荘※	〒099-2421 網走市字呼人721-1	0152-48-2660
オリーブ※	〒093-0042 網走市潮見5丁目125-67	
アザレアⅠ※	〒099-2421 網走市字呼人721-2	0152-48-2555
アザレアⅡ※	〒099-2421 網走市字呼人721-2	0152-48-3553
グループホーム海の貝	〒093-0083 網走市海岸町5の10	0152-67-8833
グループホーム海の貝2014	〒093-0083 網走市海岸町5の10	0152-67-8833
ひまわり	〒093-0043 網走市錦町120-20	0152-44-4875
ふれ愛ホーム	〒093-0084 網走市向陽ヶ丘2丁目14-1	0152-43-5466
ケアホーム夢ふうせん※	〒093-0086 網走市二ツ岩1-10	0152-67-4009
ケアホーム夢ふうせん	〒093-0089 網走市緑町3番2-2	0152-67-4009

(6) 精神保健福祉ボランティアの会

はとの会	〒099-4112 斜里町港町5-1	
コスモスくらぶ	〒099-4405 清里町羽衣町35番地 清里町社協内	0152-22-4840

(7) ボランティアセンター

網走市ボランティア センター	〒093-0012 網走市南2条西3丁目 網走市市民活動センター内	0152-61-4822
-------------------	--------------------------------------	--------------

※ 網走市以外の各町のボランティアセンターは各町社会福祉協議会に設置

(8) 社会福祉協議会

網走市社会福祉協議会	〒093-0061 網走市北11条東1丁目10番地	0152-43-2472
斜里町社会福祉協議会	〒099-4116 斜里町文光町52番地17	0152-23-4704
清里町社会福祉協議会	〒099-4405 清里町羽衣町35番地	0152-22-4840
小清水町社会福祉協議会	〒099-3612 小清水町字共和13番地3	0152-62-3988
大空町社会福祉協議会	〒099-2300 大空町女満別西4条4丁目1番6号	0152-75-6021

(9) 家族会

網走地方連合家族会	〒093-8585 網走市北7条西3丁目 網走保健所内	0152-41-0698
ニポグリラ家族会	〒093-0035 網走市駒場南1-4-1 ふれあい活動センター内	0152-44-5992
斜里あおぞら親の会	〒099-4117 斜里町青葉町40-2 総合保健福祉センターばると21内	0152-22-2500

(10) 回復者クラブ

サークルエアポート	〒099-2323 大空町女満別西3条4丁目 大空町福祉課内	0152-74-2111
あおぞらの会	〒099-4113 斜里町本町6番地12 あおぞらの家	0152-23-6291
ゆりの会	〒099-3698 小清水町字小清水217番地 小清水町役場内	0152-62-2311
キララサークル	〒093-0073 網走市北3条西4丁目 市保健センター内	0152-43-8450

(11) 福祉の店

福祉の店 さんぽ	〒093-0202 網走市南4条西2丁目 ジオビル1F	0152-44-6128
----------	-----------------------------	--------------

(12) アルコール・薬物関連自助グループ等

北見断酒会	〒090-0053 北見市桂町3丁目165-16 森本様方	0157-22-7464
-------	----------------------------------	--------------

(13) 高次脳機能障がい者を支援する会

「つながり」高次脳機能障がい者を支援する会	〒090-0062 北見市美山町68-9 道東脳神経外科病院医療生活相談室内	0157-69-0300
-----------------------	---	--------------

(14) 社会復帰学級

パパスクラブ	〒099-4405 清里町羽衣町35番地 清里町保健福祉課	0152-25-3850
小清水町社会復帰学級	〒099-3698 小清水町小清水217 小清水町役場内	0152-62-2311

2017年度

北海道立向陽ヶ丘病院年報

2019(平成31)年2月発行

発行 北海道立向陽ヶ丘病院
編集 向陽ヶ丘病院広報委員会年報編集部会

〒093-0084

北海道網走市向陽ヶ丘1丁目5番1号

電話 0152-43-4138

FAX 0152-43-4365
